

## 第20回 揖保川流域委員会

### 議事録（詳録）

日時：平成19年1月26日（金）13:00～16:30

場所：たつの市青少年館ホール

## 開会

**【庶務】** お時間になりましたので、ただいまより第20回揖保川流域委員会を開催させていただきます。最初に庶務から幾つかご連絡させていただきます。

まず本日の委員の参加数ですが、浅見委員が急遽ご欠席なのですが、11名で委員の3分の2の方がご出席ということで、定足数に達しているということで始めさせていただきます。

まず、配付資料の確認をさせていただきます。お手元の議事次第にあります資料-1から資料-10まで、10種類の資料がお手元に配付されている予定ですが、不足している資料がございましたら庶務までご連絡ください。大丈夫でしょうか。

そうしたら、庶務から本日の審議の内容及び会議の終了予定時間についてお知らせさせていただきます。

本日の議事次第は、お手元の資料-1の4つのテーマになっております。これまでの揖保川流域委員会の流れと今後の予定について、さらにわかりやすい広報・公表の仕方について、3番目として和崎委員から地域SNSのご紹介、4番目といたしまして住民の意見を今後の河川整備計画に反映させるための具体的な取り組みについて、以上4つを審議の内容として予定しております。終了の予定時刻ですが、この会場、16時半で会議を閉会させていただきたいと思っております。

それでは、道奥副委員長に議事をお願いいたします。

**【道奥副委員長】** 皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました神戸大学の道奥でございます。きょうは藤田委員長、どうしても都合がつかないということで、ふなれでございますが、私が議事を進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私自身も、前回、委員会に出席できませずに、随分この委員会に対してごぶさたをしております、若干出おくれがみなのが心配でございますけども、どうぞ、議事進行のご協力をよろしくお願いいたします。

揖保川の整備計画を取り巻くいろいろな動きの中で、河川管理者さんにおかれましては、現在、整備基本方針の策定に鋭意取り組まれておられて、先日も東京で基本方針に関する議論がございました。いずれまた、そういったことについても管理者様からご報告いただけるものと思っておりますが、そういった方針が定まりますと、さらに整備計画の内容も具体的なものになっていきますし、審議の内容も、より焦点を当てる形で議論が進むのかなと考えております。

そういう意味で、きょうで20回目でございますけど、これまでも流域委員会の中で皆さんからいろいろなご意見をいただいて、この委員会の中で、治水、利水、環境に関する整備計画の考え方等についていろいろご意見をいただきました。議論は、どちらかというのかなり収束済みと言いますが、皆さん、おおむね委員会の中でいろいろな方針についての大きな意見の違いはないように私自身、考えております。そういった委員会の考え方等につきましても、随時、広報したり、あるいは、何回かに分けて行いました流域の地域の皆さんと流域委員会との意見交換なんかを通して、いろいろなチャンネルで揖保川の整備について地域の住民の皆さんにも知っていただくような努力をしておるところでございますけど、こういう整備の方針、整備計画につきまして、この委員会内である程度の合意は得られていても、主役である地域の皆さんにどれだけ知っていただいているのかという、広報の問題がやはり重要ではないかというご意見がこの流域委員会の委員の皆さんからも出ておるようでございます。

そういう意味で、本日の議題は、これまでいろいろな技術的、あるいは科学的な内容の議論が主体であったところですが、広報のあり方、あるいは、地域の皆さんにどういうふうに整備計画について知っていただくかというその仕組みにつきまして、本日、議論をしていただきたいと思います。その中で、広報という、やり方によっては、また委員の皆様に一汗かいていただく必要が出てくるかもわかりません。そのあたりについても、また、意見交換をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事次第に従いまして進行させていただきたいと思ひます。

まず、これまでの委員会の流れと今後の予定についてから、4番の住民の意見を反映させるための取り組み等につきまして、資料に沿ひましてご説明をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

**【庶務】** では、庶務から説明をさせていただきます。

(資料 - 2 : スライドNo. 2)

今、この画面に出ておりますものと同じものを資料 - 2 というもので皆様にお配りしておりますが、可能な限り、前の画面でご説明をさせていただこうと思ひます。

今、画面に出ておりますのが本日の委員会の趣旨についてでございます。一部、今、道奥副委員長からご説明がありましたが、現在、流域委員会で地域の声を反映した河川整備計画を議論しているところです。

いきなりここに問題1、問題2ということで挙げさせていただいていますが、問題点1、過去のこの委員会において、流域市民に対しての委員会の認知度や揖保川河川整備計画に対する市民の関心度が低いんじゃないだろうかという意見が出ておりました。それで、下に書いております、前回の委員会で、地域への情報発信のためのコーディネーター的な仕組みの必要があるんじゃないだろうかという意見をいただいております。

続いて画面右側、問題点2、さらに、委員の方から、委員会での議論の方向性が地域住民の方たちの意見をちゃんと反映できているんだろうかという疑問とか不安などの声も聞かれます。これらに対して、市民の揖保川に対する関心度、市民への情報伝達の効果や認知度について、今回、庶務でアンケートを行っております。後ほど結果を報告しますが、それで市民の方たちにどれくらい伝わっているのかということを議論していきたいと思ひます。

下にまとめましたが、本日の委員会では、これらの結果を踏まえて、今後どういうふうに出していかうかという方法、それから、どうやって意見を取り入れていかうかということを本日の審議としていただければと考えております。

(資料 - 2 : スライドNo. 3)

ここでは、これまでの委員会について簡単におさらいをしたいと思います。

平成14年3月にこの委員会の第1回目を開催しております。16年3月に委員会の提言書を出しておりました、ここに書いております、豊堤の心を生かす云々というキャッチフレーズで提言書を出しております。そして、平成17年5月から19年1月において河川整備計画の基本的な考え方の審議を行っていただいております。委員会でいうと13回から19回がそれに相当します。

(資料 - 2 : スライドNo. 4)

ここでは、たくさん書いてありますが、左の欄、これは現状の認識ということで、第1回から、およそ第7回ぐらいの委員会は現状の認識、流域の概要とか、今の河川の計画とか、そういったことを皆さんで認知していただきました。そして、真ん中の列にあります、第8回からは提言書について議論を進めていただいております。一番右側には河川整備計画原案の作成をするための委員会を行っております、治水については13回から15回、そして、16回にも拡大分科会ということで治水に関する疑問点などの相互理解を行ってまいりました。

(資料 - 2 : スライドNo. 5)

左側の2列は先ほどと同じと見ていただいて結構です。一番右の列を見ていただきたいんですが、原案の中で、治水だけではございませんので、利水について、17回の委員会のときに目標とかそういったことを議論していただきまして、同じく河川環境の基本的な考え方を17回、18回と2回議論していただきまして、最後の18回に河川整備計画段階における影響分析計画書に盛り込む事項などを議論していただいております。

(資料 - 2 : スライドNo. 6)

以上をまとめますとこうということになりますが、現在の委員会の置かれている状況としましては、河川整

備基本方針の目標と整合を図りながら環境影響分析計画書を作成中です。環境影響分析計画書、たまにS E Aという説明があるかと思いますが、そのこととして、次に書いております河川整備基本方針を公表後に環境影響分析計画書、分析報告書を公表し、第三者意見を収集し、総合分析の後、委員会に報告すること。今後の審議の進め方としては、治水の目標の議論だけでなく、環境、利水、すべての原案ができた段階で全体を把握できるように進める。この段階で、原案に対して委員会から総合的に諮問できるように進めていこうという状況に置かれております。

(資料- 2 : スライドNo. 7)

では、この委員会の今後はどうなっていくのかということなんですが、今、一部お話ししましたけども、河川整備計画の原案が公表された後、関係機関に協議を図りながら河川整備計画案の決定を行います。そしてまた、関係機関に協議を図りながら整備計画の策定と公表という、黄色い枠のところの流れになっていきます。これがおよそ今後の流れになります。

最初の説明は以上にしたいと思いますが。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

今ご説明がありましたように、2002年から足かけですと6年この委員会が続いております。そういう意味で、今まではどういう流れで、これ、復習をしていただいているのは、またこれからどれぐらいのスケジュールで委員会の議論を進めていくべきかということをご皆さんでお考えいただく、あるいはご確認いただくことも含めてでございます。

非常に長い年月がかかっておりますが、それぞれの場面を思い起こしますと、それなりに相当量の作業を河川管理者にもお願いしております。現在も環境影響分析とか、基本方針とか、これはかなりの作業量を伴うものでございますけども、そういったこともありまして、必然的にこれぐらいの時間がかかってきたということでございます。

今までの流れ、これは事実でございますが、何か今までの点でご質問とか、ございますでしょうか。

もしなければ、これから残された時間、どれぐらいあるのか。整備計画ですので、できるだけ早急に、早い段階で固まったほうがいいわけでございますので、大体、これからの作業等も含めましてどれぐらいのタイムスケールで、我々、議論を進めていったらいいのか、ある程度、目安があったほうがよろしいかと思えます。着地点をおよそ定めておくという意味でも、これからどういうスケジュールで進んでいきそうなのかという見通しについて、もし河川管理者さんからご説明があるようであればございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**【井上事務所長】** それでは、我々が今考えているところについてお話をさせていただきたいと思えます。ちょっと資料が先に進んでしまって申しわけないのかもしれませんが、資料- 3の表紙をめくっていただいて2ページにA3の横書きのものがございます。今、庶務からご説明いただいたこれまでの委員会の流れが踏襲されていて、今後のことも書いていただいております。ちょうど2007年1月のところに、下に矢印があって黄色い、枠で囲んでいただいているところが今ご紹介のあった現在の委員会の審議状況というところで

す。この中の赤印のところに河川整備基本方針の目標と整合を図りながら環境影響分析計画書を作成中、まさしく今これを我々はやっているところですが、この河川整備基本方針についてまずご説明したいと思います。

今、ご意見をいただいておりますこの流域委員会の中でいろいろ検討していただいておりますのは河川整備計画、前々からお話をしておりますように、おおむね今後30年程度に、どういう優先順位で何をどれぐらい、どのような観点で、何に気をつけながらやっていかなければいけないのかということを中心に検討していただいているわけですが、この河川整備基本方針というものは、ある程度、最終的な将来の姿ということを検討しているわけでございます。これがいつの先になることかという目標年次があるものではございません。どちらかというと、全国的に、やはり洪水から守る安全度はどれぐらいにすべきなのかということを決

める、淀川ではどれくらい、利根川ではどれくらい、加古川ではどれくらい、揖保川ではどれくらいということ国を大きな安全の目標としてどう定めるのか、あるいは環境についても、どのような観点で水の流れをどの程度確保すべきなのかということ、今、特に国土交通省の大臣が諮問した審議会の中で検討していただいているということでございます。その審議会の会議が19日に開かれておりまして、今度、2回目が来週の29日に開かれる、ちょうど今、1回目と2回目の審議が行われているところでございまして、その審議の成り行きによって中身も変わるわけでございますが、今年度中には最終的に基本方針は固まるのではないかと私も認識しているところでございます。

一方で、これまでこの流域委員会の中でもご紹介しておりましたように、環境影響分析も、今、実務的な作業をしておりますが、きょうはご欠席でありますけれども、浅見先生からもご指摘いただいているように、最終的な将来目標と兼ね合わせてみないと、この影響分析も十分できないんじゃないのかというご指摘をいただいております。それもごもっともでございますが、並行して、この整備基本方針が固まりつつあるのを見ながら分析計画書を作成していくということを当面の目標としております。

この分析計画書、あるいは報告書を踏まえまして、これまで皆様にご審議していただきました治水の面、利水の面、環境の面、これをもう一度、総合的にどのように考えるのかというステップが必要だと思っております。その後、ほんとうの整備計画の原案というものを固めていくという作業になります。

ですから、この整備基本方針の関係で、先ほど副委員長からもご紹介がございましたように、ペース的に少し緩慢な状況もあったわけでございますが、整備基本方針が策定されましたら、ある程度ピッチを速めて来年度中に整備計画の策定・公表という形ができればいいんじゃないのかなということを考えているところでございます。

ただ、その中でも、きょうご審議していただいておりますように、この流域委員会は住民の意見の反映ということ大きな機能としておりますので、そのやり方を確保していなければならないと私も考えておりますので、ちょうどこの時期のときにもう一度振り返っていただいて、整備計画の策定・公表というところに、そのプロセスがきちっとできるような形を整えていただければありがたいなと考えているところでございます。

以上です。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

ただいまの今後の見通し等のご説明につきまして、ご質問とかございますでしょうか。

**【中農委員】** ということは、最終が来年の1月ごろということになるんですか。

**【道奥副委員長】** 来年の3月、平成19年度ということを1つの目途にされているということですね。状況によって相前後する可能性はもちろんございますが、とりあえず当面の……。だんだんと具体的に見えてまいりましたので、1回目に見通しはとても立たない状況でございましたでしょうけど、大分、基本方針等も作業を進めていただいておりますので、そういう意味で、先が、トンネルの出口が見えかけているのかなということでございますね。

そのほか、ございますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。もし、また何かご質問がありましたら、後ほどでも結構でございます。

それでは、議事の2番目でございますが、さらにわかりやすい広報・公表の仕方についてということで、資料-2に沿って、またご説明いただきたいと思います。

**【庶務】** 承知いたしました。

(資料-2:スライドNo.8)

前の画面に出ておりますのが、住民の皆さんの意見の反映の方法についてということで出ております。

揖保川流域委員会の最大の課題、最大というところとちょっと書き過ぎたかもしれませんが、これがきょうの委員会の議論の中で最大の課題なのかどうかともご審議ください。

住民への認知度向上と意見の集約、情報を出して知ってもらうことをもっと向上させようということと、皆さん、市民の方の意見をどうやってたくさん集めるかということです。これまで委員会でも取り組みがされていないわけじゃなくてちゃんとされておりましたが、それについて十分な評価というのが今まで定量的にはかる尺度がなかったので、ある意味、推測的なご意見なんかも過去の委員会では出されておりました。

このため、広報と委員会の情報発信について市民の皆さんの認識がどのようなものであるかを調査して、その結果を用いて今後の対策を、きょうこの委員会で議論していただければと思います。

(資料 - 2 : スライドNo. 9)

今、この流域委員会でどのような情報の発信、公開形式をとっているかということ、まず記者発表をしています。この委員会はホームページを持っていて、常に更新しております。流域の自治体にポスターで、きょうの委員会をしますという告知であったり、結果であったりを発信しています。チラシを用いて、きょう委員会がありますということを自治会などを通じて発信しています。それから、ニュースレター、毎回、委員会が終わったら委員会の結果、そのほかにも流域の話題などを入れて市民の方にお配りしています。きょうもお越しいただきましたが、きょうみたいな委員会に一般傍聴としてお越しただいて、生の委員会の状況を聞いていただくということです。主に黄色で囲っておるのは紙やインターネットなど情報媒体によるもので、今のところ、会議形式によるものは委員会の一般傍聴ということをやっています。過去には、揖保川を語り集う会というような市民の方にお越しいただく会も、委員会では開催されております。

(資料 - 2 : スライドNo. 10)

今まで述べた活動でこういうところをもうちょっと改善したほうがいいのかどうか、現状はこうだよなという過去の委員会での評価で、議事録にもたくさん残っていたものを要約してここにまとめてみました。HPと書いていますのはホームページのことなんですが、インターネット、ホームページのアクセスが極端に少ないというお話がありました。それから、委員会の知名度が低いんじゃないかというご意見。ニュースレターの内容が抽象的で興味を引かないんじゃないかというご意見。一般の人が興味を引きそうな年中行事、イベントや文化を提供していくのも委員会の役目じゃないだろうか。流域委員会でイベント、何かフォーラムやシンポジウムの開催ができないか。住民意見の反映と広報については情報発信・啓発分科会というのが担当しましょう。そういうのを第5回の委員会のときに決められています。

ちょっと最初のと関連しますが、ホームページはインターネット世代の若者に限定されるんじゃないだろうか。住民意見の集約は原案作成の前後2回行いましょうというのをこの分科会で決められています。それから、公聴会を流域の上流、中流、下流すべてで行いましょう。一般の方からいただいた意見は基本的に公表していきましょう。流域の学校の先生など、河川環境に興味がある人をどんどん取り込んでいきましょう。こういったのが過去の委員会で挙げられている意見になります。

(資料 - 2 : スライドNo. 11)

以上の意見などを大きく分類してみました。そうすると、ニュースレターやホームページなどの情報が市民の方々にちゃんと伝わって理解してもらっているんだろうかということに1つまとめられると思います。2番目に、今の情報発信の仕組み、今はニュースレターとかホームページなどを通じて出していますが、そういったやり方でいいのかということ。3番目が、河川整備計画の内容や委員会を知ってもらう必要がないだろうか。せっかく委員会をしているんだから、市民の人に、委員会ではこういうことをやっているんですよということをもっと知ってもらったほうがいいんじゃないだろうかということです。それから、市民の方々の物言わぬ多数派、サイレントマジョリティー、意見は持っているんですが、わざわざ意見書を出したりとか、委員会に来て発言されない方のことをいいます。そういった、意見は持っていたり、揖保川に対する思いを持っていらっしゃる市民の方の意見を取り込む方法は何かないだろうか。大きくこういう4つに、過去の委員会から挙げられている広報とか周知、あるいは意見の集約が分類されるかと思います。

(資料 - 2 : スライドNo. 12)

庶務で、小さなことからコツコツとやってみたことをちょっと紹介します。少しでも改善しようということで、委員会の開催期間が何カ月かあいてしまいますので、庶務で少しでも何かできないかと思ってやってみました。

ニュースレターの改良ということで、これは最新号で、きょう、皆様のお手元にもありますが、今まで枚数が多かったのをA3サイズの表裏にして、シンプルにしてみました。それから、広報用ののぼりといまして、後ろのほうに……。ちょっと佐藤さん、それを持ってもらえますか。こういうのをつくって、市民の方々に流域委員会をやっているんですよとか、まずネーミングを知ってもらおうと思ってコマーシャルのために何枚かつくって置いています。

市民の方々にちゃんと伝わっているのかなというのが委員会でありましたので、私たち庶務が街頭に出まして、市民の方々にアンケートの実施を行っています。後ほど結果を報告いたします。

それから、後で紹介しますが、きょう委員長がどうしてもご都合が悪くて、助言をいただきましたので、後ほど報告します。

(資料 - 2 : スライドNo. 13)

ニュースレターをどういうふうに改良したんですかということですが、今までのニュースレターは文字数が多いということで、これはアンケート結果から出たご意見をここに載せています。市民の方のアンケート結果は後ほど報告しますが、ニュースレターについても評価をいただいているアンケートの質問がありますので、その意見も幾つかありましたので載せています。

それから、漫画などを利用して市民の方々に難しい河川の話題などをやさしく解説しておりました。これについては、漫画で、方言が入っていて、何か親しみが持ていいねというご意見もあります。ただ、漫画の解説の以降には、正しく伝えなかったという意図があったんですけども、委員会の内容などは議事録的で文字数が多かったので読みにくかったというご意見がありました。

ということで、要点だけをシンプルに伝えようと。もっと知りたい人にはインターネットを見てもらったりとか、個別に連絡をいただいて、こちらからご説明しようという考えでシンプルにしました。ただ、シンプルにしましたが、現時点ではまだ、市民の方がどう感じていらっしゃるか、受け取り側の評価をいただいていませんので、いいか悪いかの評価はできません。

(資料 - 2 : スライドNo. 14)

それから、少しでも市民の方に知ってもらおうと思っただけののぼりをつくって、いろいろ行政機関、市役所とか地元のいろんなところに置かせてくださいと言ったんですが、「何ですか」ということでご協力が得られずに、国土交通省の出張所であるとか、こちらの、きょう会議をやっていますたつの市青少年館にご協力をいただいて、どっちみちきょう委員会がありますのでこちらの施設に置きたかったんですけども、了解をいただいて、12月の初めからのぼりを立てていますが、どれぐらいの人にこののぼりを見てもらったかというのはまだわかりませんので、こういうことをやったほうがよかったかどうかという評価はまだできません。

(資料 - 2 : スライドNo. 15)

それから、市民のアンケートは詳しく説明しますが、私ども、人が集まりそうなところに出ていって、そのときに、何のアンケートをやっているか怪しまれますので、のぼりもついでに使いまして、アンケートをやりました。市役所に許可をもらって、人がいっぱい来るから市役所の前でアンケートをとらせてくださいということでご協力をいただいて、やりました。そのときは進藤委員、どうもご協力ありがとうございました。いろいろと行政の方などにかかけ合っていていただいて実現しました。それから、スーパーに行っただけアンケートをとっています。

(資料 - 2 : スライドNo. 16)

委員長からメッセージを伝えてくれということをお願いしておりますのでご報告しますが、ニュースレターの位置づけは委員会の内容とか議論を正確に伝えることが大事なんです、それを満足さえしていれば改善は積極的にやっていってくださいと。市民に興味を持ってもらうためのアイデアとして、委員のメンバーの紹介とか、揖保川の生き物紹介、歴史紹介、地名の由来など、こういったトピックを入れましょうかとい

うのを庶務が提案して、それはおもしろい、どんどん推進してほしいということで、今回のニュースレターにもこういった内容を入れさせていただいています。地域の委員の方を紹介することで、地元の住民の皆さんも、その委員さんに揖保川に対する意見などを言いやすくなるんじゃないだろうか。生き物紹介などは、せっかく生物に詳しい委員の方がいらっしゃるの、執筆してもらおうなど、お願いしてみてもどうかとか、歴史紹介も、大体すべての委員が知っているだろうから協力してもらったらいいだろうということです。あとは、紙面のレイアウト、イラストなどを使って、文字数は極力少なくしてくださいと。それから、広報に力をどんどん入れてほしい。のぼりとか横断幕とか、できることがあればどんどんしてくださいという委員長からの助言をいただいています。

(資料 - 2 : スライドNo. 17)

では、市民のアンケートの結果をご報告します。

詳細なアンケートにつきましては、お手元に資料 - 4 ということで表紙に写真がついているのがございますが、これはいろいろ細かいデータも一緒に載せていますので、前の画面でご説明いたします。

調査方法は、どこかに郵送で送ったり、置きっぱなしにして勝手に書いてもらったりすると無責任な答えが入るかもしれませんので、正確性を期して我々庶務で、面接式にて行っています。およそ流域住民の数から想定して信頼性のある数が200票程度になったものですから、まずそれくらいは最低とろうというノルマを持ちました。

調査時期は12月11日から23日にかけて、流域の自治体でいきますとこの表のようになります。これは、偶然たつの市が多いわけではなくて、流域の住民の方々の数とかを勘案して、たつの市に90程度とろうと計算上は求めていたんですが、結果的にそれ以上にとれたと。これは、とれた数というよりは、流域住民の数に合わせて目標を決めて、このようならばつきになっています。だから、200票ぐらいいればよかったんですけど、240票ぐらいいとれました。

それから、主に行政機関などのところで市民の方々にアンケートをとっていいよということでとらせていただきましたが、日中にとると、どうしても若い方にお会いする機会があまりありませんでしたので、主婦の方とか、あるいは若い20代のお兄さん、お姉さんとか、そういった方にも聞くためにショッピングセンターなどでもアンケートをやってまいりました。

(資料 - 2 : スライドNo. 18)

結果の報告ですが、そのように多くの年齢層の方をと思ってやっています、最初にやりますと60代とか50代の方ばかりになってしまいましたので、できる限り20代、30代の方もとるように努めて頑張った結果ですが、このような年齢構成の方のご意見をいただく結果になりました。

(資料 - 2 : スライドNo. 19)

ニュースレターの認知度について、どれくらい知っていますかということです。ニュースレターについて、半数の方がごらんになったことがあります。調査員が実際にニュースレターを手を持って、「これ、見たことありますか」と。ニュースレターは毎週入るとか、毎月入るものではありませんので、忘れる可能性がありますから、現物を見てもらって答えてもらって、「ああ、これ、見たことあるわ」という方が半数いらっしゃいます。

(資料 - 2 : スライドNo. 20)

ニュースレターの評価についてですが、がついている33%、読みやすくわかりやすいという方が3分の1いらっしゃいました。10%の方は文章が多くて読みづらいということです。残念かどうかはあれですが、私は残念だと思いますが、37%の方は内容の大半に興味がないという辛口のご意見をいただきました。

(資料 - 2 : スライドNo. 21)

それから、ホームページについて「見たことがありますか。内容も知っていますか」ということで質問しています。これは3%なんです、この方々がホームページをごらんになられて内容も知っていますよという方です。56%の方は全く知らないということでした。38%、4割の方はお宅にインターネットをする



環境をお持ちでないということです。

ちなみに、この地域のインターネットにお詳しい和崎委員にお伺いしたんですが、日本全国的には七十数%、インターネットがご家庭に整備されているようなんですが、この地域には、推定値ですけど、およそ60%ぐらいがインターネットをお持ちだろうと。つまり4割の方はインターネットをお持ちでないということで、偶然かもしれませんが、インターネットの普及率と合致したという結果になりました。

(資料-2:スライドNo.22)

これから、「委員会のことを知っていますか」という質問をしています。22%の方がこの委員会をご存じでして、その審議内容もご存じでした。残り2割の方は委員会の名前を見たり聞いたりしたことはあるんですけど内容は知らないということでした。ここにある6割の方は委員会の名前も審議の内容もご存じないということでした。

(資料-2:スライドNo.23)

では、「揖保川の情報はどんなところから仕入れていますか」ということで、市政などの行政誌、それから新聞というのが結構多かったです。あとは自治会の回覧板などから情報を仕入れているということでした。

(資料-2:スライドNo.24)

揖保川に関して興味があることというのをお尋ねしました。これについては、やはりトップが水質です。昔、水質が悪かったと伺っていますが、水質に関することが一番興味が高い。次が河川の自然環境に関する。これも、特に知りたいと思わないというのが意見として3番目に出ておりました。あとは河川の工事に関する、洪水に関する、イベントに関するのと続きます。

(資料-2:スライドNo.25)

アンケートの結果からの対応策ですが、アンケートの結果を総括すると以下のような対応が必要ではないかと考えます。

ニュースレターは興味の高い水質や自然環境の話題を提供して、ニュースレターを手にとってもらおうということが大事だろうと考えます。情報の周知は、今のところ紙によるものじゃないかなと。ホームページは、どうしてもやっぱり3%の方しかご存じないのであれば、紙に依存したほうがまだいいのかなと。

それから、委員会の審議内容の情報発信をどんどん行っていく必要があるかなと。今、市民の方の2割が委員会の存在も審議内容もご存じでしたが、その2割の割合が多いか少ないか、うまく判断できませんが、もうちょっと市民にPRしたほうがいいだろうと考えます。

(資料-2:スライドNo.26)

これは全く違うところの川が入ってきていますけど、揖保川でのアンケート結果を報告しましたが、それはほかの川に比べてどうなんだろうかというために、ちょっと参考程度につけています。徳島県に福井川という川があるんですが、川づくりについてどんな項目を優先的に行えばいいと思いますかということに対して「洪水や高潮に対して安心できる川づくり」ということで、やっぱりここは洪水の経験が最近あるみたいなので、そういうところについては回答数、こういうことをやってくださいという注文が多いということです。

(資料-2:スライドNo.27)

同じ川です。川づくりで、「皆様との連携が重要です」と。これは流域委員会が聞いているアンケートなんですが、「あなたは、一緒にやっていくためにどんな活動が必要ですか」ということで河川の草刈りとかごみ拾いとかがそういうのを市民も一緒にやっちゃいましょうよという市民の声です。

(資料-2:スライドNo.28)

これは広島の江の川ですが、「今後、河川整備を行う上で最も考えないといけないと思うことは何ですか」ということで、ここを見ていただければいいんですけど、洪水を防ぐための河川改修であったり、川の自然を保全することといった内容が多いです。ここにあるのは支川になります。

(資料-2:スライドNo.29)

広島の同じ川です。最も親しんでいる川に対してどの程度関心がありますか。江の川の場合だったら、「す

ごく関心がある」と「まあまあある」を入れたらほとんどの方が川に関心があるということです。広島の場合は、9割以上の方が川に関心を持たれているというデータです。

(資料 - 2 : スライドNo. 30)

同じ川で、自由意見をいただいたんですが、自然環境にもっとどうこうしたほうがいいのか、自然環境親水性とかこういったことに関して市民の方の関心が高いというのを裏づけるデータです。

(資料 - 2 : スライドNo. 31)

同じ広島市の2級河川になりますけども、「河川整備をするときにどれからやっていきますか」、つまり市民の方の関心度の高さですが、これも洪水とか、ピンクのところの3割が水がきれいで魚などがすめるという自然環境の話です。

(資料 - 2 : スライドNo. 32)

これは、広島市の川ですが、河川整備計画への満足度、ストレートな質問なんですけど、そういった聞き方をしています。大変満足7%、どちらかといえば満足しているということで3割ぐらいの方が河川整備計画に満足していらっしゃいますということです。

(資料 - 2 : スライドNo. 33)

これは四国の吉野川、大きい川なんですけど、みんなで川づくりを話し合う場を設けようと思っていらっしゃるようで、どのような場が欲しいですかということで、1番上が、できる限り多くの人の意見を聞いて、P I、パブリックインボルブメントという、いろんな手法を用いて市民と河川管理者とが話し合っていくような場なんですけど、そういった場を県民にPRしてほしいとか、情報公開の場をPRしてほしいとか、やっぱり情報を欲しがっていらっしゃるようです。

(資料 - 2 : スライドNo. 34)

同じ吉野川で、自由な意見を聞かせてくださいというのは関心度をはかる尺度ですが、「吉野川の自然をそのまま守ってほしい」「憩いの場が欲しい」とか、そういったことが挙げられています。

最初に、揖保川のホームページ、アクセスが低いという話がありましたので、最近のアクセス数を見ますと、11万2,000、これは2004年から2007年、つい最近までの分の結果です。月平均3,300件ということで1日当たり10件ぐらいの方がホームページに来ているということがわかります。

この近辺の近畿管内で流域委員会をやってホームページをつくっているところのアクセス数の比較ですが、揖保川流域委員会は20回開催して11万2,000という、今ご報告の数字。大和川が16年6月に開設して委員会を11回やっているんですけど、1万1,000。新宮川が16年に開設して委員会6回で8,500件。こんな感じで、ちょっと開設した時期的に見て、揖保川は意外と多いほうじゃないかなと、この数字を見て思い直したんですが、先ほど言いましたように1日10人ぐらいの方が来ているのが多いか少ないかということになるかと思えます。

では、ここまで、状況の報告を庶務からさせていただきました。以上です。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

今ご紹介いただきました内容に対しましてご質問とかはございましょうか。また、意見交換は後ほどさせていただきますと思いますが、何かご質問がありましたらお願いします。

あるいは、独自に事務局でもいろいろ調査をやっていただきました。こういったことにつきましても、ご意見をいただければと思います。

今までの委員会でのご意見で、我々が審議しております内容であるとか、揖保川そのものに対して地域の皆さんがどの程度認識いただいているか、あるいは関心を持っていただいているかということが、若干、委員の皆さんも……。中農委員、お願いします。

**【中農委員】** 2点あります。

1点目は、のぼりは何本ぐらいつくられたのかということ。もう1点は、この調査の対象者の年代別、50代、60代が多いわけですけども、年代別の認知度というか、そういうのも出しておられますか。

**【庶務】** まず、のぼりですが、置かせていただけるというお話で許可をもらったところを勘案して、実は「6本しか」としか言えないんですが、6本しかつくっていません。置いてもらっているのも6本だけになります。

それから、年代別の認知度は、済みません、まだそういうクロス分析はしていませんので、それはしたいと思います。

**【田中丸委員】** 今のアンケート調査について追加の質問なんですけれども、二百数十票集められたということですが、男女比はどうなっていますでしょうか。

**【庶務】** 男性の方がおよそ4割、女性の方が6割といった構成になります。これは年齢層ひっくり返すすべての男女比です。

**【道奥副委員長】** そのほかございますでしょうか。

**【中農委員】** 年代別と、先ほど言われた男女別というのも、結局、当然、高齢の方の意見も聞かないといけませんし、やはりこれから、将来のことですから、できるだけ若い方の意見も取り入れたいという考えの中で、若い方がどれぐらい認知されていて、どういう考え方を持っておられるかというのを確認しておく必要もあると思うんです。そういう意味で、ぜひお願いしたいと思います。

**【庶務】** わかりました。これは、データとしてお出ししているものではなくに感想的なものになるんですけども、私は実際、アンケートをずっととってまいりましたので、若い方のほうが知らない方が結構いらっしゃるし、引越してこっちに来られたりという若い方に当たった数が偶然多かったのかもかもしれませんが、揖保川のことを過去からほとんどご存じない方が多かったですし、遊んだこともないということを見聞として幾つかいただきました。データとして出していないものを定性的に申し上げて恐縮なんですけど、調査したときの感想としてはそんな感じでございます。

**【栃本委員】** この『いぼがわせせらぎだより』ですけど、がらっと趣が変わったのはいいんですけど、例えば見開きのところで、一番左の写真とか、右側の意見交換、会議の様子の写真とか、右下の写真とか、こんなのは要らないんじゃないかと思うんです。意味がないんじゃないかと思うんです、説明を受けているとか、委員会の様子とか、右下はまいちよくわかりませんし。この見開きのところはみんな同じ大きさの写真がずらずらと並んで、こちら辺のメインのところは、カワラハハコなんていう、何かもやもやとした写真が載っているだけで、ご存じの方はいいんですけど、よくわからないと思います。

それから、見開きで見やすいような気もしますが、今までのせせらぎだよりと一緒にファイルすると真ん中に穴があいちゃいます。そこら辺もちょっと工夫をしていただければと思います。以上です。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

いろいろな広報の方法について、また後ほどご意見を交換していただきたいと思います。

まだご質問があるかもわかりませんが、また後ほどいただきますとして、続きまして、和崎委員から新しい電子媒体的なコミュニケーションの方法について、ご紹介をいただけるようでございますので、どうぞよろしく申し上げます。

**【庶務】** ちょっとその前に、なぜここで和崎委員にこれをお話しいただくかというのを庶務からご説明しますと、今から和崎委員にお話しいただいた後に、先ほど庶務で説明してまいりました、もっと多くの人に情報を出さんといけないうじゃないだろうかという方法の1つに地域SNSという手法があります。それについて、和崎委員がこの件でお詳しいので解説をしていただくということでお願いいたしました。それで、今から和崎委員にお話しいただくということでお願いしております。

**【和崎委員】** 和崎でございます。よろしく申し上げます。

(資料 - 5 : スライドNo. 1)

地域SNSというのはちょっと耳新しい言葉かなと思うんですけども、SNSというのはソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称です。SNSと呼んでいますけど、今、日本では大体15人に1人ぐらいが使っているツールだと言われていて、アメリカでは、実は2人に1人がSNSを使っているという非常に進んだ状況にあります。

(資料 - 5 : スライドNo. 2)

何をやるんですかということ、人と人とを上手につないでさまざまな活動を活性化するような、そういう仕掛けが組み込んであるコミュニケーションのためのツールだと思っていただければ、大体概要、オーケーかなと思っています。

そういうものを、ほんとうは大きな、できるだけたくさんの人たちが入るように仕組むんですけども、それぞれの地域レベルでやっていきましょうという取り組みが地域SNSです。

今、いろいろ課題があって、先ほどの広報の話の中でも、それぞれの、例えばニューズレターなんかは、あんなに人に読まれて理解されているのかと思うと「ああ、やったかいいがあったな」と思うんですが、実は単発的に終わってしまっているという。一つ一つの、例えばホームページにしても、いろんな委員会にしても、それぞれの顔ぶれがばらばらであったり、横に人がつながってっていないというのが揖保川流域委員会の1つの課題でもあるのかなとも思います。

また、地域社会を見てみると、実際に地域の人、それぞれの人のきずなというのがどんどん希薄化してきているんです。そういう意味では、揖保川流域というのは結構まだまだ地域のつながりというのはあるんですけども、それでも最近の時流といいますか、時代の流れの中で、地域の人がなかなか昔みたいに上手につながっていない。そういう意味では、人をつなぐというのが大きな地域の課題解決のポイントでもあるんだろうと言われていて、そのあたりを兵庫県なんかも一生懸命つこうとしているところです。

いろんな流れがあるんですけど、まずは地域のそれぞれの人が持っている人脈を見えるようにしてつないでいくという作業が必要だというのがその第1段階でありまして、この地域人脈というのか、社会関係性資本というんですけども、ソーシャル・キャピタルをいかに顕在化させていくかということが第一の課題です。

(資料 - 5 : スライドNo. 3)

そのソーシャル・キャピタルが何でつながらへんかというと、実は、つなぎ役がいなくて、この地域活性化の担い手の中のブリッジ役、いわゆる橋渡しの役割とか、情報のやりとりを管理するというのか、制御するゲートキーパーとか、こういう人たちが実は、残念ながら今はまだ地域では顕在化していないというところです。ここのところをうまくついでいくと、いろんな情報もそうですけども、活動の活性化も実現するのではないかという形のところが以前から言われています。

(資料 - 5 : スライドNo. 4)

ということで、何かITとかを使ったらうまくできないかという話は1980年ぐらいのころからありまして、アルビン・トフラーという未来学者が第三の波が来るぞと。「第一の波は農業革命で、第二の波は産業革命で、第三の波は情報革命だ」みたいな形でそういう話を言われたんですけど、実はほとんど何も起こらなかった。90年代にはインターネットが出てきました。インターネットはすごいツールだともてはやされたんですけど、今のインターネットは一体どうなのかということ、電子メールのメールボックスを開くにも、

実はおっくうになるぐらいわけのわからないメールが飛び交っていて、ちょっとクリックすると詐欺に遭って、いろんな犯罪を起こす人たちがいてという形で、ある意味、便利な道具になっていくに従って、どんどん環境的には悪化をしていくという、ちょっと使い物にならへんのと違うというのが最近のインターネットの風評です。

(資料 - 5 : スライドNo. 5)

3度目の正直になるのかどうかという話なんです、私たちが今注目しているのはWeb 2.0という言葉です。人の知識を集めて新しい何かを生み出すという、集合知というものが、今、新しくインターネットの世界の中で動き出そうとしていますという、もう既に幾つかの事例としては動き出しています。

2.0というのは1.0の世界があって、その世界がころっと変わると2.0になるという、これはよくプログラムなんかでバージョン1.0とか、バージョン2.0とか、そういう言い方をすると同じように大きな改革が始まったという意味でWeb 2.0という言葉を使っています。

実は20年以上前に堺屋太一さんが「知価革命」とか、公文俊平さんが「智民革命」とか呼ばれたことが、今、実は実現しつつあるというところです。

それは一体どんなものかというと、言い出しっぺはティム・オライリーという人で、ただ、この人は具体的にこうですというのを言っていないで概念しか言っていない。ブログというのはよく聞きますけれども、これまでホームページをつくらうと思うと、ホームページビルダーとかそういう特別なソフトが必要であったり、それから、ホームページを出しても、情報発信はできるんだけど、さっきみたいに1日5人とか10人ぐらいしか来ないという、あまり情報発信としても大きなメリットがなくなってきていますね。

ところが、ブログを使うと、そういう特別な技術なしに、簡単に文字を打って、デザインを決めて、ペちゃん写真と張って、「はい、どうぞ」というとホームページができてしまう。ホームページが、トラックバックという機能とか、RSSという連携機能なんかでいろんなものと芋づる式につながって行って、実は情報がつながっているところから自分の情報が見られるようになってくるという、見た足跡もすべてわかるという機能が出てきます。これは、まるっきり今までの使い方と変わってきた、情報がつながることによって新しい情報を生み出すという流れができてきています。

一番下に書いてある百科事典サイトというのは、ウィキペディアというんですけど、よくインターネットを使われる方は、実はこれ、知らず知らずのうちに、知っていてただ使っている百科事典です。

百科事典というのは、普通、何十万の30巻、こんな太いやつでブリタニカ世界大百科事典とか、書齋の棚に並んでいるような存在がこれまでの百科事典でした。ちょっと仰々しくてあまり使われていなかったのかなと思っていきながら、一般家庭にもあるんですけども、多分開いていないんだろうと思います。そういうものではなくて、今度は、インターネットの中でみんなの知恵を集めて百科事典をつくらうといったプロジェクトがこのウィキペディアなんです。最初はだれも信用していませんでしたが、今では世界200カ国語で240万語彙が登録をされていて、なおかつ、世界で一番大きなという、信頼される百科事典というのはブリタニカなんですけど、ブリタニカが160万語彙なんです。ブリタニカよりたくさん入っていて、イギリスの調査会社の調査では、ブリタニカとウィキペディアとから100語彙を無作為にとって、どこが怪しいのか、ちょっとでも怪しいところがあったらカウントしようということで調べると、ブリタニカが142、怪しいところがあって、ウィキペディアは176あったという調査があります。というぐらい、世界のこれまでの知恵を集めたのとほとんど同じぐらい、肩を並べるか、もしくはそれ以上にインターネットで無料で、お金をかけずにつくってお金を取らずに使ってもらえるような、そういう仕組みがもう既に動き始めています。

こんな動きが出てきたというのが、実はWeb 2.0なんです。そのWeb 2.0の中のサービスの1つの例としてソーシャル・ネットワーク・サービスがあります。これは一体どういうものなのかというのをちょっと漫画でご説明をしたいと思います。

(資料 - 5 : スライドNo. 6)

インターネットの世界というのは、先ほど言いましたようにめっちゃめっちゃ怖くて危なくてやばい世界にな

りつつあって、あまり行きたくないと思っている。ただ、情報はたくさん、山ほどあって、情報だけは安全にとりたいんだけどと思っています。でも、怖いから行きたくないの、卵の殻みたいなものをつくりましょうという、これがSNSです。卵の殻の内側がSNSです。中からは外を見ることができませんけども、外からは中を見ることができません。中に入るにはどうしたらいいのというと、専用の一人一人に与えられたログインとパスワードが要ります。それはどこでもらえるんですかという、中にいる人から招待をしてもらうんです。招待をしたらそれがもらえる。招待をするということは、卵の中に自分の友達を入れるわけです。これ、嫌なやつは入れないんです。好きなやつを入れるわけです。ということは、この関係は非常にいい信頼関係があることが前提で入ってきますから、友達の友達は友達なんです、いい友達。自分は直接、今知らなくても、多分いい人たちなんだろうなということで、この人たちといろんなコミュニケーションをやりまします。メッセージを交換したり、日記のコメントを入れたり、日記というのは一人で書いて一人で読むじゃなくて、一人で書いてみんなに読んでもらう日記なんです。みんな読んでもらいながらコメントをもらって、またいろいろ使っていく。それから、コミュニティーといって、それぞれ活動とか趣味とかそういうのが同じような人たちが集まって、たまには会って飯でも食いに行こうとか、運動会でもやろうとか、そんな感じでどんどんとよい仲間たちだけで交流が広がっていくという仕組みです。この中で、2つ私はポイントとなる機能があると思っています。

(資料 - 5 : スライドNo. 7)

1つは、ネットワークが可視化できる。友達の友達にはどんな友達がいて、その友達がどんな日記を書いているからこれはこんな人で、どんな活動をやっているからいけるなとか、仲よくなれるなとか。それから、自分のプロフィールも公開されていますから、大体の人脈がわかるんです。人脈というか、その人がどんな人か。つまり、普通だったら見えない人脈が、可視化されることによって、では、ちょっと悪いけどあの人を紹介してねという間に入る人をお願いができるような、そんなネットワークの広がり方をしていきます。これは非常に効率的です。

もう1つは、コミュニケーションが、実は擬似的なんですけれども、いつもつながっているような感覚、常時接続しているような感覚になります。こうなるとどうなるのかという、「あの人は今どうかな」と思っていて、年賀状が年1回来るという間柄じゃなくて、いつも気がかりな、気にかけていられる。つまり何かあったら支え合って協力ができるような関係にすぐなれるという関係性が生まれています。

SNSで重要なのは、信頼される環境の中でネットワークが可視化されるのと、もう1つは、常時接続しているからいつも一緒にいられる、こういう感覚が得られるというのがSNSの大きな特徴です。

地域では、現実にはいろんな人が人脈をつないでいくわけですけども、それをつなぐために、出会って、あいさつをして、例えば一緒に活動をするとか信頼関係が生まれてきて、信頼関係が生まれると相手の持っている人脈がおぼろげに見えてくる。「ああ、この人はこんなふうにいるんだな」と思うと自分もその人脈が欲しくなって、気がつく周りの人たちも同じような人脈を有しているよねと。この活動がゆっくりと行われるんです。例えば10年とか15年かかって人脈をつくり上げるわけです。10年、15年かかるという結構時間が必要なので、この部分を、つまり出会って、あいさつして、一緒に何かやって、信頼関係をつくり上げて、なおかつ互いのネットワークが見えるようになりながら、互いのネットワークを活用し合うという部分を、リアルでも、それから、リアルでできない部分をバーチャルでみたいな、インターネットを上手に使ったSNSで実施できたらすごく効率的に、というよりも、速くこういうサイクルが転がせるんじゃないかと考えて、この部分を担わせるのが地域SNSの役割と考えております。

(資料 - 5 : スライドNo. 8)

SNSというのは、ミクシィというのが日本で一番有名なんですけど、アメリカでは1997年から始まっています。今、世界で一番大きなSNSは、アメリカでmyspaceというのがあって、これ、1億人と書いてありますが、もう一億二、三千万人ぐらいに行っているらしいです。

特別な機能を持ったSNSもあります。日本ではミクシィとかグリーとか、いろいろ始まったんですけども、大体ミクシィが、使っているのは今、700万人ぐらいでしょうか。カウントされていても使ってい

ない人がいます。

ただ、問題はというと、大きくなり過ぎると友達の友達って、ほんとうに大丈夫？ 多分、友達の友達は大丈夫だろうと思うけど、その友達の友達ぐらいはちょっと危ないという、ミクシィでは既に100万人ぐらいは危ないやつがいるんじゃないかと言われていて、実際に詐欺事件とかいろいろ起こっているわけです。

ということで、巨大になり過ぎると一番大切な信頼関係が低下するので、そういう意味でも、やっぱり信頼できる地域限定のSNSというのがいいのと違うという考え方です。これが日本でスタートしたのが、大体去年の頭ぐらいか、おとしの秋ぐらいからぼちぼちと各地で生まれています。

(資料 - 5 : スライドNo. 9)

具体的に地域SNSのやっている内容というのをここに図示しています。今、いろんな地域コミュニティーがあるんです、自治会や婦人会や老人会。これ、実は同じ色で1人だけ大きいのが自治会長さんと婦人会長さんみたいな話です。ある特定の人たちに負荷がかかって、いつも決まったメンバーで毎年同じことをやらなくちゃいけない宿命を帯びたコミュニティーになってしまっているんです。非常にかたいネットワークなんですけれども、中のネットワークの、紐帯というんですが、人と人との関係性が強いだけ、自分たちで何でもできるんです。だから、何でもやっちゃうから外からの情報が入らない。いわゆる閉鎖的な環境で動くので、だんだんと閉塞感が出てくる。そういう形で動いている、ちょっと言い過ぎかもしれませんが、そんな感じがなと思っています。

この中でも新しいことをやりたいという人はいるんですけど、現実にもこの中で実施しようと思うとそれができない。ということで、そういう人たちにSNSという場を提供しようというのが最初のコンセプト。

テーマコミュニティーの人たちがいます。例えばいろんな地域活動をやっている。地域コミュニティーの方からいうと、この人たちは好きなことを勝手にやって、わたしの地域のことは全然手伝わへんといって愚痴をこぼす相手です。ところが、この人たちもやっぱり同じように活動の閉塞感を感じています。だんだんと年月がたってくると、前にやったことを繰り返さなくちゃいけないというのと同じようなことです。もっと広がりたいたいのにと思っているんだけど広がらない。もっと人脈が欲しい、いろんな人たちに入ってほしい、理解もしてほしいなと思っているニーズがある。地域でそれぞれ独立して、一匹オオカミのようにしてやっている人たちももちろんいて、いろんな人たちが地域にいるんだけど、ネットを持っている人、人脈が欲しいというニーズのある人に、今、それぞれ1人ずつ、つてを頼りながら一本釣りをしています。一本釣りというのは、招待をしながら中に入ってきてもらっています。

最初は100人で始めたんですけど、3カ月半ぐらいで、今、1,500人ぐらいになっています。それぐらいになると何が起きているのという、全然知らなかった人たちがぼこぼここの中でつながっていきながら、この中で支え合う関係性をつくっていつているんです。いつもつながっている、信頼できる人たちだからここで支え合っているんです。昔の地域みたいなやつとちょっと気軽なやつです。今度は、こんなことがやりたかったんや、あんなことがやりたかったんやというのから始めて、ここでコミュニティーをつくるんですけども、そういう活動の輪をつくり始めています。

こういうところ、それぞれの活動の交差をする場所に存在する人たちというのは2つ、3つ、4つ、5つぐらいの活動を一緒にやっていて、それなら、2つ、3つ、4つ、5つの活動の内容を知っている。内容を知っていると情報がわかる。人材もわかるんです。とすると、こっちに足りないのが、こっちであったら融通をすとか、先ほどお話をしましたゲートキーパーの役割を担ってくるんです。

こういう、いわば情報の伝達能力のある人たちが顕在化してきて、それぞれのコミュニティーに帰って、「こんな人がいたよ」とか、「こんなことがあったよ」とか、「こんなことができるのと違う」みたいなことを言い始めて、人脈もそこで活用してくると、これがぐるぐる回ってくると、ここの色や、それぞれ担い手の人たちの動力というのはだんだんと変わって行って、最終的にはいろんな色合いになってくるのではないかと、というのは仮説なんですけれども、これをぐるぐる回していく、さまざまな人たちを1つの輪の中に入れてもらって、その中でコミュニケーションをとっていただくことによって地域が活性化してくるだろうと。

ですから、これは1つ、例えばネットということだけで何かしようと言っても、あまり人は動きませ

ん。いろんな人たちがいる中で、その中の1つの活動をネットでということやと、今まで増えなかった人たちが、それぞれの活動に加わってくるような流れになっています。

完全招待で、実名登録で。招待した人は、あと、面倒を見て。実は地域社会と非常に近いですから、情報を出すのも安全、安心なんです。2ちゃんねるみたいな、ああいう荒れたり絶対しないです。事件も起こりません。4カ月の間、全く事件は起こらない。ところが、自分の情報を見せたいところ、見せたくないところ、返事が欲しいところ、欲しくないところみたいなやつは自分できっちりコントロールできるようにという形のものをつけながらつくり上げています。

これがSNSの構造なんですけれども、今やっているのはここなんですけど、これが行政のポータルとつながって、地域のポータルとつながって、例えば地域のネットショップとつながって、それぞれ、のれん分けのように、今、実は兵庫県の県域で始めているんですけども、播磨がぼこっとのれん分けをして、神戸がぼこっとのれん分けをしてみたいな形で運用ができるような設計を現在していて、4月からはオープンソースといって、内容を全部公開して、だれでも書きかえられるようにすることになっています。

ちょっと見にくいですけども、このえんじ色の棒グラフが会員数です。突然増えないでぼちぼち増えていっています。この折れ線グラフがページビューといまして、1日どれくらいページが見られたかというのをあらわしています。大体、1日に25万ページ見られるぐらいのサイトになっています。これは11月の末ですから、わずか2カ月ぐらいの状況です。

どんな人が入っているのというと、これは1月4日の調べなんですけれども、実は姫路市が一番多くて400人ぐらいで、今、多分四百五、六十人ぐらいいるんですかね。たつのが68ですけども、100近い数が出て、流域でも結構多いです。全体としては、1,520人ぐらいです。

これはきょう、追加資料で出しています。年齢層というのは、結構、平均年齢が高くて42歳です。30代から50代ぐらいあたりが一番中心の固まりになっています。男女比が2対1ぐらいで男性が多い。普通、SNSというのは20代のツールになっているんですけども、地域SNSは、やっぱり地域とつくだけに随分と年齢層が高くなって、中のコンテンツも随分と変わってきます。

仮説を立てていたんですけど、地域SNSを動かすと自発した人がどんどんつながりますというのは、1000人が4カ月で1,500人になるというのは、それが1つの証明になっています。すごくつながっています。

それから、地域というのは、ほんとうはもっと近くつながっていいんです。つまりブリッジの役割をする。ゲートキーパーの役割の人たちというのが顕在化すると、これまで、本来はつながっているべき人たちがつながる。そうすると、地域は結構少ない人数で目的の人に行き着くんじゃないか。例えば4人ぐらいかなと思っていて、これはまだ証明はされていません。これから実際に、もっと運用してデータをとって証明をしていくところです。

地域力を覚せいさせる力があるよという、これは先ほどの人脈を可視化して使えるようにすると、地域自身の問題解決能力が目覚めてきて、なおかつコミュニティー、小学校区単位とか自治体単位ぐらいから、わいわいがやがやと活性化する動きをもう少し大きいエリアで動かすことができるようになるはずなんです。

ということで、地域SNSを立ち上げていく中でこんなことを考えておこうというポイントを押さえて書いておきました。

完璧は成功の敵というのがあります。きちっとつくってきちっと見せるということをやってきたんですけど、それでは人がどんどんと参加しないんです。ええかげんにしておいて、どんどんだれでも参加できるようにしたほうがいいということです。お金があると、お金だけでやろうとするので、人や知恵を集めようとするとお金がないほうがいい。お金は後からついてくるということです。

細かいことを一つ一つ言うておったら始まらへんので、とにかくいいことやったらみんなでやりましょうという道普請の復興をしなくちゃいけません。こんな話です。

地域SNSを使うと、流域委員会でどんないいことがあるのかなというのを考えてみます。ブログを公開して、RSSで既存のホームページと連携させることによって、いろんな人たちが揖保川流域委員会のリア



ルタイムのニュース、生のニュースを見にきてもらえる可能性がむちゃくちゃ高まる。今、見ていただいたように、20万ページ、毎日見られるコンテンツがある。そこにおいてつなぐだけでも相当な効果があるはずです。

地域との情報共有ができる。これは掲示板を使って、地域の人たちと一緒にいろんな情報を考える。まとめてどんと提言書が来るんじゃないなくて、提言書の起案段階でさまざまな個別の興味のあるポイントを流していくと、そこにその意見を持ってきて意見交換ができるようになっております。

きょうここで委員会がありますよとかいうことをイベントカレンダーに登録して啓発をしたり、こんなことがありましたというフォローアップをして、これをみんなで見るとか。

パブリックコメントなんかもやっぱりそうです。トピック別に、それぞれ項目別に出していく。

きょうの追加資料の中に新聞記事を入れているんですけども、1月17日の震災の日に、リアルタイムレポートといって、それぞれ今現在、兵庫県で行われている人たちが携帯電話を使ってレポートを入れましよう。まず携帯で写真を撮って送るといふ、写真だけじゃなくて動画も送れるんですけども、その機能を使って、今どこでどんなことをやっていますよというのを報告しましようというのをやりました。90人が参加して260ぐらいのコメントが集まりました。写真つきが半分ぐらいです。あわせて、ブログまで合わせると三百二、三十ぐらいのレポートが集まったというんです。これをよく考えると、震災とか災害があったときに、現地から携帯電話で、現地の模様をそのままレポートするというのが当たり前のようにできるといふ、いわば証明なんじゃないかなということ。こういうものにも使える。

住民と常時接続感が強い、だから、揖保川、揖保川といつも考えていられるような、そういう意識を醸成することができるんじゃないか。

SNSをきっかけとしているんな地域の活動の人たちと協働関係が構築できるのではないか。

流域委員会にメリットがあるというのは、こういう流れがあるかもしれないという形で考えております。

(資料 - 5 : スライドNo. 10)

「ひよこむ」といふ、兵庫県と一緒に考えてといふか、動かしているシステムなんですけど、ここは今、電話回線につながっていますので結構遅い。こういうコンテンツが「ひよこむ」なんです。何があるのといふと、中でやれるのは、それぞれ友達が書いた日記を参考にしたり、それから、コミュニティーといってみながやっているやつなどで新着情報が出てきたり、いろんな人たちがどんなプロフィールをしているのかなといふのを見たり、今、1,521人参加していて、平均年齢は42.0625歳といふ、ここに書いてありますけども、こういうコミュニティーをやっています。

実はけさ、8時前、7時55分に揖保川流域委員会の説明を私のブログに書きました。揖保川流域委員会といふのはこんなので。「でも、もっともっと地域の人たちに知ってほしいんですよ。協力してくれる人、いる？」と実は私がブログに書きました。もうそろそろ皆さん出勤する時間なので、コメントが来えへんかったらここで紹介するのはやめておこうかなと思っていたんですけども、さっき確認したらコメントが8件入っていました。その中で、実は揖保川はおじいちゃんの地域なんですよといふ人もあるし、地元の人たちもいますし、実際に90人ぐらい、既にお昼までの段階で見られている。

ですから、1つは、こういうツールを上手に使うと、今までできなかったつなぎといふのができるようになる。これは情報のつなぎでもあるし、人と人をつないでいくという方法です。最終的には、我々、流域委員会としては、この流域の人たち同士と、それから流域委員会が考える揖保川の未来といふのをつないでいくといふことを少しずつ、時間をかけてもやっていくことができるのではないか。

先ほど、来年度末といふ1つの目標日時が出てきておりますが、今のペースでいくと、この地域SNS自体も、おそらく数万から数十万ぐらいの人たちが加わっているネットワークになっていると思いますので、そういう意味では、いろんなツールと一緒に連携させて使いながら有効に役に立つ仕掛けではないかなと思えます。

以上です。ありがとうございました。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございます。

1つの方向、方向という言葉では片づかないかわかりませんが、地域の連携の電子的な強化の方法といたしまして、インターネット版の1つのツールとしてご紹介いただきました。

また、意見は後ほどいただくとしたしまして、簡単なご質問がありましたらお願いしたいと思います。若干、横文字と片仮名が多かったので、そういう意味では、いろいろとご質問があるかと思うんですが、ちょっと時間の関係もありますから、次、進めさせてもらいましょうか。

そうしましたら、とりあえず後で意見交換、ご質問をいただくとしたしまして、4番目の住民の意見を河川整備計画に反映させるための具体的な取り組みについてということで、資料-2の残りの部分をご説明、お願いします。

**【庶務】** それでは、続きを庶務から説明いたします。

(資料-2:スライドNo.35)

広報・公表のあり方ということで、アンケートの結果、先ほど私がアンケートの結果を随分と駆け足で説明してしまいましたので、皆様に、揖保川のアンケートの、今回、二百数十票の結果をもって市民の方が関心を高く持っているのか、あるいは、やっぱり委員会で過去に言われたように関心が低かったのかというのを、おのおの委員の方々、心の中で評価してほしいわけなんです。それをもって今からの話を進めたいんですが、ここでは、仮にですが、アンケートの結果で多くの市民の方が揖保川を問題視していないことが判明したんじゃないかということで書いております。

その理由としては、揖保川が古くから水質が問題視されていたんですが、近年きれいになって解決したこと、それから、近ごろも大きな水害に見舞われていないので、大きな問題を抱えていないよりの川というか、平和な川であろうという市民の認識があるかなと思います。

それで、アンケートの一部にもありましたが、特に知りたいことはないとか、興味はないという冷たい声もあったりもしましたが、おそらく、今はそんな問題じゃないんじゃないかということから出てきたのかもしれない。

しかしながら、河川整備計画の策定には流域の意見を反映することが必要でありまして、現在の状況でこの委員会を進めていって整備計画を策定することでもいいのかどうか。ここで委員会の考えを確認しておく必要があると考えています。

(資料-2:スライドNo.36)

改善点と書いてありますが、その1つとして、揖保川に対する関心をもっと高めていこうということ。2番目については、市民と委員会とのコミュニケーションだとこれを読んででもいいと思いますが、そういった不足を改善していこう。改善点の3番目として、自治体とか自治会の参画を促していこうということを書いております。

改善点の1ですが、関心を高める必要があるんじゃないかということは、先ほども申しましたように、水質とか洪水が最近ないということで、もしかしたら市民の関心が川に向いていないのかなと理解することもできます。ただ、万が一、有事のとき、洪水などがあったときに備えるために、治水の整備内容、ハード対策、ここは川をどういうふうに掘削するんですよとか、堤防をどういうふうにつくるんですよとか、そういったことの広報の必要性、地域の方にこの揖保川がどうなるかというのを知ってもらう必要もありますし、あと、減災の仕組みなどのソフト対策、ちょっと言葉が専門的かもしれませんが、要は避難をどういうふうにしませうとか、そういった川づくりに関する仕組みといったものを、平穩な今ですけど、関心を持ってもらう必要があると考えています。それを図示したのがこれです。

(資料-2:スライドNo.37)

市民等とのコミュニケーションの不足改善ということですが、これまで市民の方々に関心を持ってもらって、意見を取り入れていくためにきょうのような公開形式をとっておりますが、積極的な招き入れはしていませんと書かせていただきました。チラシとかで、どんどん来てくださいというPRは庶務でも一生懸命し

ているつもりではありません。今後、揖保川に関心を高めてもらうためには、今以上にアプローチしていく必要があるんじゃないのか。つまり、チラシなどを配って、それを見て興味を持ってもらった市民の方が来るのは全然拒まないという姿勢が今の委員会でありますが、もっと出ていって、「もっと来てください。今度はおたくの地域の話があるかもしれないから来てください」というふうに、委員会としてもっとアプローチを積極的にしていく必要があると、ここでは書かせていただきました。

(資料 - 2 : スライドNo. 38)

それから、自治体や自治会の参画を促していこうということですが、河川整備計画の原案ができた段階では、自治体に意見をもらうことになっているんですが、それを早い段階から参画してもらうことで、自治体、ここだったらたつの市なんかが揖保川をどうしようかと将来計画の中で考えていっちゃうこともあるかもしれません。そういった地域計画などの反映がよりスムーズにできるんじゃないかとか、あるいは、住民に近い立場にいっちゃう自治会、こういった方々と一緒に巻き込んで議論や広報活動に参画してもらうことが重要じゃないかと。今、広報活動は、結構、自治会の方々にご協力していただいているところもありますので、広報を活発にするのだったら自治会の方をもっと取り込んでいけたらなということでございます。

(資料 - 2 : スライドNo. 39)

ここは、改善策の提案と書きましたけども、こちら辺の手法については、きょう配付しております資料の3番目の12ページ、13ページに書いておりますことを随分と要約して、前でご説明させていただきます。

今ごらんいただいているこの画面では、積極的に市民の方々に情報を発信するためにこんな方法があるというのを書いているんですが、幾つもありますので、簡単にですが説明します。パンフレットとかニュースレターは今やっております。ホームページも今やっております。インフォメーションコーナーというのは、揖保川のことについて、この会場のこちら側に、たつの市の施設に揖保川の情報センターみたいなのを置いていただいています。それから、見学会などで住民の方などを交えて、前回の委員会がそうでしたが、やりました。あと、懇談会、現在の委員会はそういうスタイルだろうということです。この図の見方は、実線で囲まれた丸はすべて今の委員会でやっていることとなります。この下に書いている点線のことが、今からやれるんじゃないかという、広報の手法と言い過ぎかもしれませんが、やり方です。色分けは、黄色がインターネットや紙の媒体によるもの。緑が展示によるもの。どっちかという「見てください」という感じです。こっちのブルーのものは、事業者側と書かせていただきましたが、河川管理者、ここでいうと国土交通省が説明を交えながらということとなります。あと、こちら側は会議形式で市民の方々とやるものになります。

上が、今、委員会でも取り組んでいること。やっていないことでは、今、和崎委員に説明いただいたSNSという、ネット環境で揖保川について語ろうということ。それから、オープンハウスというのは、インフォメーションコーナーはただ掲示するだけなんですけど、オープンハウスはもっと大規模なものと思っていただいてもいいです。常に係員がいっちゃうような感じで、聞きたいことがあれば、その係の者に聞くということで情報を仕入れることができるものです。あとは説明会とか、タウンミーティング(対話集会)であったり、ワークショップ、こんなに大きなグループではありませんけど、実際、絵をかいてみたりとかそういったワークショップをやってみたり、グループヒアリングは、せいぜい十数名のグループで揖保川について、例えばきょうは環境のテーマで集まってみんなで話そうよとか、そういった小規模の会議のことを指しています。

ですから、今はこういった広報・公表のことをやっています。ただ、単発的にタウンミーティングを開いたから揖保川のことを市民の方に十分伝え切れたというのではなくて、やっぱりこれもやって、SNSもやっていると。多分、1つでは十分に成り立たないものだろうとは思いますが。

(資料 - 2 : スライドNo. 40)

ここには、今、丸に書いていたものを表に並べてみたものなんですけど、済みません、勝手に委員の役割なんて書いて恐縮なんですけど、委員の皆さんにぜひご協力いただかないと市民の方々に十分伝わらないし意見も取り入れられないと考えたもので、委員の役割、かわり方ということで書かせていただいています。

パンフレットやニュースレターについては、先ほどご指摘がありましたように、やはり専門的知見をもって原稿のチェックをしていただいたり、記事の投稿を行っていただいたりというのを、主体的には庶務で、今やっているとおりでいいんですが、補助的にサポートをしていただきたいなと考えています。

ホームページでしたら、ホームページの中の記事の投稿をしてもらったり、原稿のチェックをしてもらったり、ニュースレターと同じような感じでかかわっていただけたらと。

それから、SNSにつきましては、先ほどもお話がありましたように、輪の中で語り合う人がいないといけませんので、ぜひ会員になっていただいて、その中で主体的に意見を出し合っていただければと思います。

インフォメーションコーナーだったり、オープンハウスだったりというのは似たようなタイプなので展示です。市民の方への広報パネルとか、あるいは模型なんかをつくるかもしれません。そういったものについて、ぜひ監修という形でかかわっていただいて、ここでも補助的にはなろうかと思いますが、そういうかわりの度合いでしていただければと思います。

あと、説明会、見学会、これも似たようなスタイルになるかもしれませんが、この場合は、これは委員会ではありませんので、説明会でありますと、おそらく事業者の国土交通省から説明があるわけです。それを住民の方たちがわかりやすく、委員の方々それぞれの専門分野でかみ砕いていただいて、住民の方に理解をしやすいしてもらおうとか、あるいは、住民の方が、ここはこういうふうに川をしたいんだけど、あれは専門用語で何と言うんだっけとか、こういうのは河川の法律ではできるんだろうとか、河川の法律だったら行政でもいいんですが、ほかの河川環境とかではどうなんだろうとか、そういったものの住民の代弁をするようなアドバイザーとしての役割を持っていただければということで、こういった場合は、ぜひ主体的なかかわり方をしていただければと思います。

懇談会ですと、今の委員会のスタイルそのものと思っていただいてもいいです。

グループヒアリングではいろいろと議論の導き役になっていただいたり、論点をわかりやすく解説して、その場にいらっしゃる市民の方の意見を出しやすくするような役をしていただけたらと思います。

タウンミーティング、これも、実は語り集う会でやられていますので、そういった場で話題を提供したり、住民にわかりやすく解説する役で主体的にかかわっていただけたらと思います。

あと、ワークショップです。個別の話題とかで住民の方々、十数名単位の規模になるかもしれませんが、そこで委員の方がファシリテーター、つまりそこでの意見のさばき役という理解でいいと思いますが、意見をさばいて、集約して、話をまとめる役割になってもらったり、住民側の技術アドバイザーになってもらったりということが必要かと思っています。

ただ、ピンクで書いているような住民の方を集める場合には、地域の委員さんにはぜひ積極的にかかわっていただきたいんですが、こういう話をするから来てくださいと人を集めていただくような役割も、かわり方としてあるかと考えています。

(資料 - 2 : スライドNo. 41)

これを概念的に示したのですが、今この委員会がございまして、私ども庶務で広報活動の企画提案を委員会に相談したりしております。河川管理者では、そういったことで委員会を支援したりしています。そのほかに市民の方たちがいるんですが、市民の方たちの間に、これは地域コーディネーターという別の組織が要るのか、もしくは組織はなくても、今、そういう市民との間を取り持つような役割を既にこれまで委員会でもしてきたわけです。語り集う会であったりとかで市民の方々に揖保川のことはどうかという意見をそこでもらったり、まったくこの委員会ではないことでもないのでもしやれるのであれば、こういう地域コーディネーター的な役割をもっと大きくしていけたら市民の方たちに揖保川流域委員会のこともたくさん伝えられるでしょうし、ご意見も取り入れられるのかなという、ちょっと概念的な図で恐縮なんですけど、こういう案もあるなというぐらいの程度で見ていただいて、きょうの議論にいただければと思っております。

庶務からの説明は以上になります。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

ただいまのは、ご質問というより、我々が意見交換をして、これからどういう取り組みをするのかということ議論する上での議論のきっかけを幾つかご紹介といひましようか、こういうのがあるよという誘い水をお示しいただいたことでございますので、こういったことを下敷きにしながら、全然違う案も、もちろん結構でございますし、今の提案の中で、もう少しこういう考え方もあるのではないかという意見があると思いますので、そういう意見交換をいただきたいと思います。

それでは、ここで少し休憩をとらせていただきまして、まず最初、先ほどご説明いただきましたような広報・公表の仕方とか、地域SNSについてのいろいろなお紹介に対してのご質問とか、それを踏まえてどういう取り組みをしていくのかということについて、残された時間で審議いただきたいと思います。

それでは、5分ぐらいに再開したいと思いますので、よろしく願ひします。

(休 憩)

**【道奥副委員長】** それでは、後半の審議に入りたいと思います。

資料-2を中心に、それから、和崎委員にご提供いただきました資料-5を中心に、いろいろと広報に関する課題とか、認知度についての調査もございましたし、新しい広報、あるいはコミュニケーションのとり方の1つのツールとしまして地域SNSという非常に新しい試みをご紹介いただきました。

まず、ご質問をいただきまして、それから、先ほど庶務から広報のこれからのあり方についての1つの提示がございましたけども、あれをもとにしていただいても、あるいは全くそれとは関係なしにご意見をいただいても結構でございますので、具体的な取り組みについて、後半、意見交換をしたいと思います。

まず、全体的に説明に対するご質問とかはございませんでしょうか。

恐れ入ります、傍聴の方は、また後ほど時間をとらせていただきたいと思いますので、よろしく願ひします。

**【中農委員】** 広報と公表の仕方についてということなんですけども、何のためにやるのかということのをちょっと再確認しておく必要があるのかなと思うんです。流域の方は揖保川がどうなるのかということですので、情報を開示して、それについての意見を求め、その意見を反映するというのは当然あると思うんですけど、果たしてそれだけなのかということなんです。揖保川を、今後、みんなの川にしていく、また、みんなに愛される川にしていくには、やはりその後のことも当然あると思うんです。そういうことを視野に入れたやり方をしていかないと、ただ意見を聞くために「こういう案ですよ。どうですか。いいですか、だめですか」という、これだけで終わってしまったら本来の情報公開ということですか、こういう広報・公表にはならないんじゃないかなと私は思うんですけども、その辺ちょっと。

**【道奥副委員長】** おっしゃるとおり、何のためにやるのかということを確認する必要があるかと思ひます。

和崎委員は、実験的な位置づけで1つのSNSを立ち上げておられますけど、ここではそういう実験というものではないに、実際に役に立つものをつくり上げる必要があります。まず何のためにということについて、今までも何回か意見交換があったかもわかりませんが、このあたりについて、皆さんのご認識といひましようか、こういうためがあるんじゃないのということも含めて意見をいただければと思ひます。

これまでの河川整備というのは、ある意味であてがいぶちだったという感じがいたしますね。多分、予算が得られて、河川管理者で専ら問題点を探って、最優先の課題から解決していかれて、それに対して住民の方々の要求に合っていたものも、もちろんあるでしょうし、それから、一部の方々にとっては「何でそこらなのか」とか、「何でそれを先にするのか」という行き違いも多少はありながら河川整備が、ある意味、ちょっと言葉は悪いかもわかりませんが、あてがいぶちでされてきたわけですけど、法律が変わりましてそ

ういうわけにもいなくなりまして、流域委員会形式をとっていない河川もあるようでございますけども、何らかの形で、地域の意見を吸い上げたような形、反映した形の整備計画をつくっていくということが1つあったと思います。

それと、防災面、安全面でも、河川と人が共生する面でも、まずは河川に対してどういう状況にあるのかということを知っておかなければ、例えば災害が発生したときにどう逃げていったらいいのか、どういうところが危ないのか、そういうことすら、関心がない状態ですと知らないまま進んでいってしまう。いざ事が起こったとき、どういう対応をしているのかわからない。ところが、実際には河川の予算というのは非常に限られておりますから、河川管理者が物をつくって水害に対して対応できるのには当然限界があるわけで、国土交通省も大きな方針転換があったようでございますけども、整備が間に合わない部分につきましては、できるだけ人的被害を最小限に抑えるようにハザードマップとか、災害情報の提供なんかを通して被害を最小に抑えるという、災害を防ぐじゃなしに減らすという考え方でいかなければだめですと。その場合には、当然、当事者である河川流域の皆さんがどう行動するかということは非常に重要になってくると。安全面1つとってもそういう問題があるわけです。

河川環境の問題もそうです。たびたびこの委員会でもご指摘いただいておりますように、河川に対する意識、河川を大事にしようという気持ちが河川を美しくする場合もあれば、ダメージを与える場合もあるということがたびたび議論なされてきたわけでございますけど、おそらく整備計画、このまま進んでいっても物はでき上がるのかもわかりませんが、それで果たしているのかというご意見が委員の皆さんから出てきたのは、そういう背景があるのかなと私は理解しておりますが。

**【和崎委員】** 個人的な意見ですが、3つあるんだろうなと思っていて、1つは、流域委員会が地域の意見を吸い上げるなんて、きっとできないんでしょうと、最初からそんな感じがして、つまり地域には多様な意見があって、その意見同士が、いわゆる背反するというか、対立軸にあるというものも当然あるわけで、そういうところの中で意見を吸い上げながら反映をしていくということの難しさというのは当然出てくるわけです。

そういう意味では、いかに地域のコンセンサスづくりができるようなムードの構築とか、それから、それに対して情報の提供とか、きちんとした形での、本来の自分たちが決めていくというプログラムの構築みたいなものがまず1つあって、その手助けに、この流域委員会の広報・公表みたいなものが役に立つのではないかと、そうしなくちゃいけないんじゃないかと。

もう1つは、幾らお金がかかっても災害が起こったときには何らかの被災をするわけで、この被災の減災をしていくことについて、大きな費用的な負担を今後はあまりかけられなくなるんだろうと。そうなる、いわゆる人のきずなどいいますが、そのあたりは地域のそれぞれの今現存する人と人とのきずなどで防止をしていくとか、減災をしていくとか、そういうものを考えていく必要がある。つまり、これはさっきSNSで話をした、人の関係性が希薄化している、その歯どめと、それから再構築をしていく必要があるんじゃないかと。これのために流域委員会に何ができるかという話があるんです。

もう1つは、先ほどのほかのところのアンケートで、川の草刈りとかをやりたいよという意見が多かった。つまり、何か川のためにやりたいという気持ちが、これは揖保川でも同じようにたくさんおありだろうと思います。そういう意味では、大きなことは言えないけども、ともに働く、汗をかく、川普請みたいなものができるような流れをこの揖保川流域委員会の中で目指してPRをしていくということが、この情報関係の切り口としてはあるんだろうなと思います。

ちょっと話が戻ってしまっておめんなさい、コンセンサスというのは住民だけでとるんじゃないで、そこに行政がどうかかわるかとか、流域委員会がどうかかわるかというのも考えてのコンセンサスという意味です。

**【道奥副委員長】** ありがとうございました。

そのほか、この件についてご意見ございませんか。

**【進藤委員】** ちょっと前後するような話なんですけども、資料-2のスライド35に、アンケート結果で、多くの市民が揖保川を問題視していないことが判明と。これ、裏返してみたら、この右にも書いていますけども、大きな問題を抱えていないよ川であると。これはいい意味でとらえたらそうなんですけども、悪い意味でとらえた場合、言うてもむだやねんみたいなのところもあるでしょうし、いい意味でとらえたら、多くの市民が揖保川を問題視していないということは、大きな問題を抱えていない、現状、このままでいいのと違うかなという、そんなところもあるのかもしれませんが、下のスライドには揖保川に対する市民の関心が低いということを書いていますけども、裏返したら、これは現実の揖保川の現時点の姿なのと違うかと。これは1つの、ちょっと言い過ぎかもしれんですけど、世論なのと違うかなと。

それを踏まえて、ここの上に改善点 揖保川に対する関心度の向上が必要と書いていますけども、何で揖保川に対する関心度の向上が必要なのかなということ、ふと私、疑問に感じたんですけど、中農委員が先ほどおっしゃっていたように、何でこの関心度の向上が必要なのかなというのをもう一度再確認というか、再点検してみて、それだからこうしなければならないということやっていかなかったら、私自身、目的意識というのが、ここへ来てちょっと薄れてきつつあるような気がしますので、皆さんはそうではないと思うんですけども、ふとそういうことを感じた。

あえて、例えば37番に書いていますが、委員会への積極的な招き入れはせずに、現在はいいと。このアンケートの結果を見たら、そんな無理に流域の市民の皆さんに関心を持ってもらうということがほんまに必要なのかなと、もっとほんとうに皆さんに、例えばこういうことに関心を持ってもらうことが必要だと言うのだったら、そのための何か元素というか、そういうことをちょっと一遍再確認したらいいのと違うかなと思います。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

広報の方向性、方針等を固める意味でも、関心が低いことの問題点、何が問題であるのかということをはっきり位置づけて考えていくべきではないかというご意見だったと思います。

事務局で、関心が低いのか、高いのかということ調べる意味でアンケートをしていただいておりますけども、これを低いと考えるのか、高いと考えるのか、このあたりも含めてご意見をいただければと思います。

**【新聞委員】** 新聞です。

ちょっと観点が違うかもしれないんですけど、いいでしょうか。

**【道奥副委員長】** はい。

**【新聞委員】** 実は、私と友人とで住みよいまちづくりの会というのを一昨年の秋から立ち上げております。これには政治色は出さない、持ち込まないということで、純粹に、ほんとうに住みよいまちをつくりたいという人が集まっています。今は会員が35名ほどなんで、40代から私ども70代ですが、月1回例会を持ちまして、過去には防災についてとか、ごみ問題とか、教育とか、福祉とか、その都度テーマを決めて話し合っております。防災についてのときには、地震のことで1回持ち、水害のことで1回持ちました。避難所はどこにあるのか、そのマップはどうなっているのか、避難民の受け入れの状態はどうするのかとか、食料の備蓄はどうなっているのかとか、水害のときはどういうふうにして町民に知らせるのか、今の消防の放送は聞きにくいとか、どうすれば皆さんにその伝達ができやすいのかとか、いろいろ問題が出まして、その都度、市当局から説明に来ていただいて、そういうことを話し合ったりしております。

また、昨年11月には、みんなで自然を大事にしよう、もっと自然のよさを認識してもらおうということで、第1回もみじ祭りというのをしました。今も旗の問題がちらっと出たんですが、あれと同じで、真っ赤

な「やまさきもみじ祭り」という旗を60本つくって、私ども、一生懸命汗をかきながら、町中、立てて回りました。それをつくるお金がないので、土曜夜店でバザーをしてもうけました。

そうして自分たちでいろんなことをやってきておりますが、その会で、時々、私、揖保川流域委員会の話をしたり、いつも「この『せせらぎだより』を読んでくれよってか」という聞いております。今度これを見せたときに、皆さんが「ニュースレター、変わったね」という話が出ました。そこで出た話をちょっとメモをとっておるんですが、「あれぐらいの分量なら読む気になるな」とか、「以前は発言の内容ばかり書いてあったが、どんなことをしたかとか、どんなことが決まったかとか、ポイントを押さえているからわかりやすいな」とか、「写真があると、こんなところだからこうしたいのかなとかということがわかる」というのが出ておりました。先ほどもこの写真のことが出ておりましたが、人が写っているのは必要ないんじゃないかと私も思いますが、「ここら辺が変わるのか」ということが出ておりましたので、今度、何に入っている場所がこの写真でわかったということもあるので、少しぐらいはそういった写真もよかったんじゃないかなと思います。

それから、「着工順位はどうなっているの」ということも聞かれました。「それはまだちょっと聞いとらんをやけどね」ということで、7の地区の御名のことが出まして、「あそこは直角に曲がってんで、大水が出たときに、ぱつといったときに大変やろうな」とか、「そこへ行くまでの土手が全然できていないから、あそこは早うしてほしいな」とか、「あそこは龍野とつなく唯一の道やから、洪水で行けなくなったら困るやん」という意見も出ておりました。

そういうことであるいろいろな意見が出ておって、こういういろいろな工夫をしてくださっているということが皆さんにわかったんじゃないかと。皆さんというも集まった人の中での意見なんですけども、持っていてる人もあると思います。

それから、インターネットのことなんですが、私どもは、皆、家に1台パソコンがあってもさわらせてもらえないという人がほとんどです。だから、やっぱりインターネットだけじゃなくて、このニュースレターの充実とか、工夫というほうが手っ取り早いんじゃないかと思いました。

まだまだ意識が低くて、この前も、今宿のところの話し合いをしたときに、あそこら辺の河川敷はどうなっているんやという話をしたときに、町から、今、青写真をこういうふうにして、こういう話が出ているんですよという話が出たときも、遊歩道をつくってほしいとか、桜並木できれいにしてほしいとか、そういう程度の話しか出ないんですけども、やはり皆さん、ある程度、関心を持っておられる人もあると思います、これは私どもの、まだまだ低い意識の中で出たことなので、あまり参考にならないかもしれませんが、

以上です。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

ただいま、幾つか重要な点をご指摘いただいたように思います。

まず、新聞委員、周辺の非常に小さな手づくりのコミュニティーづくりではありますけど、そういった取り組みの中で、実際、情報を伝えてみると、皆さん、非常に河川工事に対する興味も高いことが、現象として出てくるということがまず1つあります。そういうことをご指摘いただいたように思います。

それと、ニュースレターにつきましてもいろいろ評価をいただきましたが、その中で、また後ほど和崎委員の、ああいうインターネットの取り組みについての意見交換をいただきたいと思いますが、あれは非常に強力なツールといえますが、1つの有力な手段になり得て、もし揖保川でそういうシステムが立ち上がれば、全国でも非常にユニークな整備計画を充実させる上での取り組みになるのではないかと思いますけど、その一方で、今、新聞委員からご指摘いただいたように、紙媒体の重要性、これも非常に重要な視点だと思います。

もちろん、和崎委員はインターネットのスペシャリストではあられませんが、もちろん紙媒体を否定されているわけではないと思いますが、ある意味、私もそれが非常に実感としてありまして、例えば我々の世界だったら論文というものを従来は紙に書いて、それが我々の一番の大きなPRだったんですが、最近、C



D-ROMになる傾向が多くて、そうなりますと、お互いに我々の仲間同士で言っていますが、「読まなくなるね」というような、要するにCDにおさまると、それでももう終わったような話になってしまう。そういう傾向が電子媒体の場合には1つのマイナスのポイントとしてあるのは、これは間違いない。我々は人間ですから、デジタルな生き物ではありませんので、当然そういう現象もあると思います。そういう意味で、どういふメディアで広報をしていくかということについては、非常に今のご指摘は重要なところを突かれていますのではないかと思います。

そのほか、ご意見ございませんでしょうか。

**【庶務】** 庶務から、データの提供をしたいんですが、ハザードマップというのがありまして、先ほど、災害のときの避難の話とかそういったのをどれくらいの人が認知しているんだろうかというご意見を委員の方がおっしゃってありました。

まず全国の直轄河川、揖保川も直轄河川ですが、ハザードマップを全市町村でつくられます。ハザードマップにかかっているのは、ざっと言いますと、あふれたときにどこが水につかります、そのときの避難はどのような経路でどんなところが避難場所ですというのが地図になっています。これの全国の認知度調査が国土交通省でされていて、平成12年度、まだつくり始めてあまり時間がたっていないときが4%でした。平成14年度、6%に少し上がっています。それ以降の集計がありませんので、平成14年度で6%ぐらいがハザードマップの世論の認知度というデータを提供したいと思います。

以上です。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

**【中農委員】** 私の専門分野としてまちづくりということをやっているんですけども、この流域委員会で私が委員として入っているのは、その視点から川づくりをどうやっていくのか、進めていくのかということが私の役割なんですけども、前からずっとこの委員会でも私、訴えてきたんですが、なかなか取り上げてもらえないというか、何というか、どうしても従来の狭い川づくりに限定した話になってきているんです。兵庫県下でも武庫川という県管理の河川での計画書なんかを見ますと総合治水という形で、やはり町と川との関係、町の中の一部として川があって、川づくりによってその町がどうなるのか、市民の生活はどうなるのかという中で川づくりという形で策定されているんです。

だから、私のそういう視点からいいますと、こういう意見を吸い上げるや何やかんやというときも、やはりまちづくりの大きなとらえ方の中で皆さんの意見を吸い上げていくような形をしていかないと、揖保川だけが単独に市民の生活の中から乖離するというか、隔離されたような形になってしまうんじゃないかなと危惧しているんです。

では、そのまちづくりというのはだれが主に担わないといけないのかということなんですけども、基本的には住民なんですけども、それを主体的にサポートし、また、引っ張っていくのは自治体なんです。市なり町なんです。今回も、この流域委員会で私が当初から言っていたのは、市とか町の顔が全然見えないんです。国土交通省だけしか顔が見えないんです。市とか町の総合計画では、揖保川はどのような位置づけになっているんですかとか、そういう話なんかも言ってきて、今回もこの河川整備計画案をつくる中で市町との意見ヒアリングとかいう形になっているんですけども、それだけだったら、きょうはたつの市ですけど、たつの揖保川の位置づけというか、今後、まちづくりの中でどう活用されて、みんなに愛されていくのかというのが全然できないと思うんです。住民もしかりですけども、もっと自治体も引き込んで……。今、連絡協議会みたいなものもないですよ。一緒に、ともに、やっぱり流域の行政体を含めた形での連絡協議会を設置して、そこでもっと行政サイドでの議論をしてもらおうとか、こういう地域への周知、また、情報公開にしても、その自治体、市とか町がもっと中心になって、一番市民と近い関係にありますから、そういうところがもっと活発に動いてもらうということが、今後のことを考えて、私は非常に大切じゃないかと思うんです。

今回、提案されている資料 - 2 の最後のページの支援策という表がありますけど、何かよう意味がわからないんです。実際どこが主体的にやるんですかという、主体がないんです。みんなそれぞれの関係だけを示してあって、じゃ、どこがこれを引っ張って行って、情報公開をして、地域の人たちとキャッチボールをするんですかというのが全然見えないんです。

考え方としてはいろいろあると思います。もう市町はいいんだ、国土交通省でやるんだと。実際に、私は「川の日」ワークショップなんかで川づくりの全国大会に年1回は参加していますけど、国交省が直接それぞれの事務所で、直、住民の方々と一緒になってやっている川づくりも事例としてありますし、私が今言ったのは、市とか町も巻き込んで、一緒になってやっている事例もありますし、いろんなやり方があるとは思いますが、基本は、やはり事業主体である国土交通省が自治体をもっと参加させる中で、逆に住民の方々をどう巻き込んでいくんだとか、そういうアプローチの仕方というのも大切じゃないかなと、その中で、当然、流域委員会も応援するのはどんどん応援できるわけですから。何か今の話の流れでいくと、流域委員会がいかに情報を住民に公開していくかみたいな話になっているんじゃないかと思うんだけど、それは私の勘違いですか。ごめんなさい。

**【和崎委員】** アプローチは2つあって、今、中農さんがおっしゃったように、いわゆるフォーマルな、正式な形で、連絡協議会とかそういう組織をつくってみたい組織体制で動かしていくというきっかけづくりというのは1つ、これもあるんだろうと思うんですけど、きょうも説明した、例えばSNSでどんな実験をやっているかということ、まずは兵庫県の職員と地域住民との協働をどうやってつくるかということをやっているんです。

1,500人の中に、多分百二、三十人ぐらい、pref.hyogo.jpのメールアドレスが入っているんです。となると、1割弱は県庁の職員なんです。県庁の職員と住民が平場でいろんな意見交換をしながら、さまざまな課題についての議論をやったり、たまには冗談を言い合ったり、表に出て一緒に活動したりということ、今、何カ月かやってきていて、その流れとして、インフォーマルな場なんだけど、ネットワークができ始めているんです。

1つは、フォーマルな点については、私は組織の人間じゃないので何とも言えないんですが、そういう人と人がつながるということを基本形にネットワークを張り直してみようということ、川づくりとまちづくりを連携させるというのは、少し長期的な、例えば2年か3年かかるかもしれない、ひょっとしたら10年かかるかもしれませんが、そういうアプローチで見えていってやるということもできるだろうなと思います。

**【中農委員】** 当然それもやらんといかんと思うんです。

私が言いたかったのは、市民のまちづくりを一番よく理解し、一緒になってやっていくのは自治体なんです。市とか町なんです。そこを抜きにしては始まらないんじゃないかと思うんです。今回どれだけ参加されているのかようわからへんのやけど、それが言いたかったんです。だから、それをいかに巻き込むかということ。

**【庄委員】** この間、せせらぎだよりの26号を庶務の課長さんと一緒に各市民局をお願いして、各自治会配りをしてきたんです。新聞折り込みではだめですということで、一緒にずっと、宍粟市だけですけれども、市民局を回って、各市民局から各自治会に働きかけてもらって、新聞折り込みでなくて各戸配付にしてもらいました。

なぜそうしたかといいますと、皆、出会う者が、「おい、おまえ、揖保川やろう。このごろ、どないなっただ、あれ、死んでまいよるや」とか、「あんなときにアコ放したってあっかいや」とかそんなことで、揖保川の河川整備に対する住民の顔というのは全然見えてこないんです。だから、もしもそれをもっと理解させてもらうには、今ありましたとおり、まずこのことで集まろうよというんだったら、それを自治会に働きかけることが我々の一番の近道ではないだろうか。

といえますのは、学校のプールが整備されるに従って子供たちは川から離れていきます、汚い川、危険な川ということで。そういう年代の人が今ちょうど成人を迎えていて、今の若い人たちは河川に対する考えというのはほんとうに少ないと思います。河川に対する愛着もないと思います。だから、そういう人を巻き込むには、やはり自治会に働きかけていくという方法がとれないものかなと思います。

**【家永委員】** 今の意見と大体同じですけど、いろいろ複雑に絡むかもわかりませんが、まちづくり、川づくりという段階では、やはり住民を川へ呼び込まないといけないと思うんです。川へ呼んでこないといけない。そのために、さっき言われました、子供たちが川から離れているとかいうのを、逆に学校側に大いに働きかけて、川のいろいろを調べさせたり、川の植物、カワラナデシコ、カワラハハコが大事だということを大いに、現物を見せていろいろ説明したりしないといけないと思う。

川をどう整備するかというのは、環境問題、いろいろ言われていますので、実際問題、アンケートで水質が非常に大きなデータが出ていますし、その次に自然環境というデータが出ていますので、現実がどうだということを、一番いいのは、やはり学校が子供の総合学習なんかで働きかけて、継続的に、親もひっくるめて、ちょうど千種川でやっておられるような感じで、家族ぐるみ、地域ぐるみ、どんどんやっていければいいと思うんです。

そういう働きかけを仕掛ければ何とかなるんじゃないか、もっと関心が大きくなるんじゃないかとは思いますが、なんですけど。

**【丸山委員】** 先ほどの家永先生の意見に関連するんですけども、揖保川に関して興味があることは水質に関することが一番に来ておるわけです。水質といえますと、揖保川の国交省さんの直轄区域外から揖保川に流れ込んでいる川のほうが当然大きいと思われまますので、県さんなり市町村の管理の川のほうから水質を改善していかないことには、当然、揖保川もきれいにならないということになると思いますので、自治体にも呼びかけてご協力願おうということが必要ではないかと思えます。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

今までいただきましたご意見は、とにかく住民にとって何が関心があるかということが1つのポイントではないかというご意見だったと思えます。その中に水質というお話もありましたし、それから、川の問題だけではなくて、まちづくりということ、住民というのは川とだけつき合っているんじゃないし、町の中に住んでいる人ですから、そういう意味で、川に限定した問いかけじゃなしに、まちづくり、あるいは町の中の川という位置づけで皆さんに1つ関心を持っていただく方策があるのではないかと。その場合に、1つの相手になる対象のポイントとして自治体とか、学校とか、そういうご意見が出たように思います。

それに対していろいろ、例えば住民の皆さんが求めている意見が反映されてきたとしたら、どこが実行するのか、おそらく河川管理者は口が裂けても町をつくりまますとは言われなないと思えますけども、ここではむしろ、市民が何を求めているかという意見をもっとクローズアップすることが重要ではないかと。そのためには、流域委員会が仕組む広報のあり方としては、我々は河川管理者ではないので、まちづくりにもベクトルを広げて、もう少し関心を持っていただく、あるいは意見を集約するという試みが必要ではないかという共通のご意見だったのではないかと思えます。

それで、事務局からの資料 - 2の19ページに、自治体、自治会の参画を促すという1つの試みみたいなものを書いていただいておりますが、ここで皆さんからいただいたご意見はこういう路線なのかなと。つまり、法律的には整備計画の案ができたときに河川管理者さんが自治体に意見を求めるという手続がありますが、そういう法律に定められた枠内だけではなくに、一步以前の段階で、流域委員会の段階、広報の段階で自治体とかかわり合う必要があるのではないかとというのが大方の皆さんのご意見だったのかなと思えました。私の理解が間違っていたらご指摘ください。

これについて、管理者さんにも、若干、問いかけられているような部分があるようにも思えますので、も

し何かコメントがありましたらお願いしたいと思います。

**【井上事務所長】** 振っていただいてありがとうございました。

今、皆さんがおっしゃった意見、まさしくそのとおりだと思います。私どもも、河川管理者として、行政として与えられている責任を果たすということはもちろん重要だと認識しているんですけども、そこだけの話にとどまらない、川の問題をとらえる、あるいは人間の生活というんですか、暮らし方ということ、あるいは、全生物が、今後、地球の中でどう生きていくのかという中での問題としてとらえる必要があると思っております。

幾つか意見が出たことに対して、ちょっと私なりに思っているところを申し上げますと、もちろん住みよいまちづくりということ、暮らしやすい、住みよいということの中で川はどうあるべきかという見方がもちろん重要でございますし、そのために市町村、兵庫県ですと市と町ですけども、それとの連携というのも取り組んでいます。

確かにご指摘があったとおり、この流域委員会というか、河川整備計画の活動の中に市、町の顔が見えていないのもおっしゃるとおりだと思います。また、結構、これとは別の活動で、例えば防災面ですと、洪水の予報連絡会ということで毎年集まりまして、どこが河川管理上危ないので、ここのことを重点的に水防団、消防団の方、見回って一緒にやりましょうとか、情報提供はこうしましょうねという話とかも、これは行政間ではそれなりにやっておりますし、水質汚濁防止協議会という形で、これは別に自治体と河川管理者だけじゃなくて、漁業協同組合の方であるとか、地場の産業にかかわっている方々も入っていただいて、何か水質面で問題があるのかとか、水質事故のときにどういった体制で連絡をとるのか、そういうことをやっております。

また、水利用の面でも、湯水の対策ということで水が足りなくなった場合に、どういうふうに住民の生活、あるいはいろんな企業活動に支障がないような形で水の配分を考えるかという湯水の連絡協議会とか、そういうこともいろいろやっているんですが、確かにこの流域委員会との連携はどうかと言われると、よく見えないというのは私も感じているところでございます。

それから、川への愛着が薄れてきたということで、学校ではどうか、地元の方々との連携はどうなっているのかということも確かにそうです。

私、全国の今の流域委員会の動きから見て、この流域委員会が今やっていっている役割は、河川整備計画に対する意見をこういうふうに皆さんにお願いしているわけですけど、流域委員会の役割は、全体にはもう少し大きい役割を担っている、あるいは、そういう形に展開されているところがあることも承知しております。

例えば、ここで計画を立てていただいて、これに基づいた我々の仕事もあるんですが、それ以外のいろんな地域の活動を評価されたり、フォローアップされたりと取り組んでいるところがありますので、確かに先ほど私が申し上げましたように、来年度、19年度をめどに整備計画をつくるということは当面の目標として持っておりますけども、流域委員会の役割というのをこれで完全に終わらせてしまう必要も特にはないですし、いろんな活動に展開していくことはできるのではないかなと思っております。いろいろやったことの再評価、また新しい取り組みのきっかけづくり、あるいは地域の活動の支援とかに対して新しい提案をしていただいたり、住民の方々の意識啓発に取り組んでいく、いろんな役割があると思います。

河川管理者は、もちろん自分たちのやるべきところはやろうとは思っているんですけども、提言でもおっしゃっていただいたように、豊堤の心とかそういうことをやるために、例えば自主防災組織であるとか、結構、自治会レベルで取り組んでいる活動で、水防活動とどう連携していくのかと。今年は、たつの市もかなり力を入れていただいて、また、豊堤に畳を入れる訓練などもしていただいたりということで、ただ単に物をつくって、そのほかは知らないというのではなくて、ふだんからの日常的な取り組み、防災活動で取り組んでいただいているので、今後、例えばこの流域委員会の中ではそういう具体的な取り組みをサポートしていこうということもできるでしょうし、一方では、ごみも相変わらず多い状況ですので、直轄、県管理区

分にかかわらず、ごみが川に入ってこないような、ごみを捨てない、あるいは捨てさせないような、地域住民との取り組みで河川管理者もこんなことをやれという話もあると思いますし、一緒にイベントをしたり、クリーンキャンペーンをしたり、草刈りを行ったり、そんなこともできると思います。

また環境面でも、丸石河原とかいろんなことに対して我々が河川整備をすると影響を与えるかもしれないということで、地域としての貴重な財産であるこの自然資源を守るようなことを河川管理者はちゃんとやっているんだということを監視していただいたり、その状況を見守って、また新しく、こうしたほうがいいんじゃないかとか、これはやめたほうがいいんじゃないかというのもあるでしょうし。

それから、水利用の面ではおいしい水、食糧をつくるための水、あるいはそうめんであるとか、皮革産業であるとか、しょうゆ産業であるとか、揖保川の非常に重要な特徴のあるものを支えるために水というのはどう利用したらいいんだろうとか、いろんな活動に展開していくことができると思うんです。私も、そのようなことに広げていただくような形にこの流域委員会が展開されれば非常にありがたいと思います。

今、皆さんにも、これまでの流域委員会でお話をさせていただいたように、下流の三川の分派地区などでは、あそこを、今後、地域の活動の場としてどう展開しようかということで地元の方、あるいは地元の自治体の方にもご協力していただいて、こんな形に持っていこうということも、もう動いていることはご承知だと思いますけれども、今後、流域委員会のそういった新しい活動を促進するようなことを考えるということもあるんじゃないかと。

何も私は、例えば浜崎委員がおっしゃっているSNSとかを流域委員会の整備計画だけのために使うんじゃないくて、そういった今後の新しい活動のきっかけづくりになるような形くらい大きな視野でご検討いただいて、「河川管理者もできるところはこうしろ」とか、「それを整備計画の中にも入れてくれ」ということを言っていたら、これはできると思うんです。

だから、もちろん河川管理者にできることは限られているんですが、住民と一緒にやっていくものを計画に入れるとか、そういうこともできないわけじゃないと思っておりますので、そういった幅広い視点で言っていたらありがたいと思っております。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

そういう意味で、狭い意味での流域委員会の役割に限定せずに、今、申されましたようないろいろな幅が広がった活動の段階での主体は流域委員会という名称になるのかどうか、これはまた議論が必要になるかもわかりませんが、むしろそういう可能性、広義での活動の可能性というのは当然あるという、あえて河川管理者とは申しませんが、国土交通省側からの見解だったのかとも思います。

という意味で、皆さんのご指摘になっているようないろいろなご意見を肯定していただいたような意見じゃないかと思っておりますが。

**【田中丸委員】** 今のお答えにもちょっと関連する部分なんですけれども、ここで今、広報について議論がされているわけですが、多分2つの側面があると思われて、そのうちの1つは、時間はかかるかもしれないけども、じわじわと、皆さんに揖保川に関する情報とか、あるいは関心を高めることが浸透して行って、ひいては河川整備計画が今後、二、三十年、実施されるに当たって、住民を巻き込んでいくという意味での効果、それを上げるための広報ということと、非常に短いスパンでの目標としては、やはり決められたタイムスケジュールの中で河川整備計画を策定するに当たって、その策定までに住民の意見をできるだけ具体的に吸い上げたいということもあって、そうすると、それぞれの広報に適した方法論というのが本来あるはずで、私は、例えば前者の話だったら、先ほど家永委員がおっしゃったような学校教育等で子供たちから揖保川に関心を持ってもらうというのはものすごく効果的だと思うし、かといって、そのことは長い時間をかけて効果を発揮してくるものだと思いますので、例えば1年後に整備計画を策定したいというのにすぐ反映できるかとは言えないかもしれない。そうすると、身近な目標のためには、もしかしたら何か即効性のある手だてというのも、ここではちょっと議論しないといけないかもしれないし、先ほどの河川管理者さんの話

だと、流域委員会の役割というのは必ずしも整備計画策定だけのためじゃないんだ、もっと広い意味の役割もあるよということであるならば、前者のもっと長いスパンでの意味での広報活動についてもここで十分に話し合ってもいいかもしれないし、少し仕分けして、それぞれに一番いい方法を模索してはどうかかなという気がちょっとしたんですけども。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

非常に整理してご意見をいただきましたので、わかりやすくなったのではないかと思います。

長期的スパンで考えていく方法、この中には河川整備も含めて、先ほど中農委員、あるいはほかの委員からもいただいたような、もう少し活動、広報の幅を広げることも含めて、長期に至る限りは空間的なスケールというか、バリエーションも広がっていくだろうということもあると思います。そういう方式、そういうことを目標にする広報のあり方と、それから、一番近い将来的には、計画を策定するために急ぐといひましようか、短期的に実施する広報、それから意見の反映、それぞれ分けて、整理して方策、方法論を考えていってはどうかということです。

庶務からも幾つか、最後のほうに議論のきっかけとして広報活動の方法論を資料 - 2の20ページに整理していただいております。これだけではないでしょう。皆さんでいろいろほかにもアイデアがあると思いますので、それも含めて、見ながらご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

ちなみに、長期的なスパンで、長期でないとも効果があらわれないというような広報活動のあり方の中にも、答えとして出てくる、それが河川整備計画の中に反映できるような広報の効果もあるでしょうから、それはどんどん、結果が出てきて随時取り入れていければいいのかなと。

それから、まちづくりも含めた地元の皆さんの要望のうちの河川整備計画に係る部分については積極的にどんどん吸い上げていただいて、整備計画に反映していただくということももちろん可能かと思ひます。

先ほど申し上げましたように、和崎委員のこういう取り組みというのは非常に有力というか、強力なツールになりそうに思ひますけども、いかがでしょうか、このあたりに対してもご意見をいただければと思ひますが。平たく言ひますと、これはインターネット上の、ある目的を持った同好会というとらえ方でよろしいでしょうか。

**【和崎委員】** インターネットを使った地域の井戸端会議ですね。そんな感じだと思ひていただいたら近いと思ひます。

**【家永委員】** その結果を紙か何かで、一般のいわゆるインターネットを使えない方々にも何かの方法でやってほしいと思ひます。

**【和崎委員】** 今やっている社会実験では、10人に1人ぐらいまではこの仕組みで情報が伝わるだろうという想定をしています。10人に1人というたら、残りの9人はどうするのというとも、それは人力やろうと考へていて、逆に、そこまでテクノロジーでフォローアップするということ考へると、おそらく合わないものができ上がるし、大切なのは何かというとも、人のつながりを生かし育てるというのが最も重要なことなので、このツールがそのきっかけになっていければいいと考へて運営をしています。

紙媒体とか、それから口コミとか、こういうさまざまな既存の手段が複合的に重なって、きっと効果は広がって、深まっていくんだろうと思ひます。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

家永委員ご指摘のように、多分、情報の伝達というものは全く1つのメディアだけでは当然伝わり切れないわけで、メディアの多様性というものはどんな場合でも必要になってくるかと思ひますので、そのあたりはぜひ、1つの方策だけではなくに複数のいろいろなチャンネルで広報活動をしていければいいのかなと思ひます

が、そのあたりはいかがでしょうか。

**【庄委員】** 今の時点に来ましたら、非常に具体的な方法が必要じゃないかなと思うんです。それで、宍粟市内の各自治体は、自治体単位ではなくて、もっと小さい単位で1つの自治体を3グループ、あるいは4グループ、大きな自治体だったら5つにも6つにも分けてタウンミーティングがあるんです。それはどんなことを話し合うかというたら、人権であったり、そのときの事業であったり、例えて言うたら節分の祭りをどうしようかとか、そんな具体的な、自分たちの身近な生活の話し合いをやるんです。そういうタウンミーティングの中に、揖保川の整備についてどう思うかとか、揖保川はどうだろうかという課題を入れていただいたら、そういう要請をしていけば、具体的な策としまして、もっと深まった揖保川に対する認識が増えてくるのではなからうかと思うんです。以上です。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

どういう単位でどれぐらいを一固まりのグループと考えてコミュニケーションをとっていくかというご意見だったかと思いますが、今ご指摘がありましたように、自治体というご意見もありましたけども、もう少し、その自治体を構成する小さな単位、多分、今いただいたようなご意見を反映するには自治会とか校区というのは大体手ごろなサイズなんだろうね。いかにそういう単位にまで情報をおろしていくとか、ディストリビュート、分配していくかという方法論を具体的に考えていく段階ではありませんかということですね、全くそのとおりだと私も思いますが。

そのほかのご意見、いかがでしょう。

**【栃本委員】** 広報の方法ということなんですけど、結局、それ以前の問題として、川というのが、今、多くの人の生活の中に入っていないというのが一番の問題だと思うんです。ですから、アンケートのところでも、「特に知りたいと思わない」というのが「水質に関すること」、「自然環境に関すること」と、3番目に来ていますが、同じような程度で出ていますし、結局、川というのが洪水という治水上の問題、それから、水質やごみという見た目の景観の問題、そういうことでしか我々の生活の中に入っていないというのが問題だと思うんです。ですから、先ほど家永委員から学校内での活動とかそういったこともありましたけど、長い意味で、そういう環境教育をして子供たちを育てるということは大事ですし、それは続けていかなきゃいけないと思います。

現実問題として、今現在の大人をどうしたらもっと川に来れるのか、関心を持たすことができるのか、そういうことが大事だと思うんです。

実は、中農委員のおやりになっている学校の土木関係の学生さんの意見で、「私の周りには環境なんかに関心を持っている人は1人もいない」と。私、1年間、環境の話をしてきて、きのう、試験の最後に所感を書いてもらった中にそういう非常に正直な意見が出ているんです。ですから、20歳前後のそういう若い人たちでさえ川というのが遊びの場、生活の場とは到底かけ離れた、土木系の学生さんですけど、治水とかそういう場が変わってしまっていると。ですから、まずどうやって多くの大人を川へ引っ張り出すかということを考えていかないと、幾ら広報しても、関心を高めるということは無理じゃないかなと思います。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

そういう意味で、事務局で幾つかご提案になっている説明会とか見学会というのは短期的に、瞬発的に終わってしまいますので、栃本委員のおっしゃったご意見と若干違うかもわかりませんが、1つのメニューとしてはそういう試みなのかなと思います。

それ以上に、精神生活の中での川の存在感をもう少し高める工夫というご意見だったかと思いますが、ほかに。

**【和崎委員】** 先ほどの庄さんのお話で、自治体よりも細かな校区とか、自治会という話がありましたけど、きょうの資料の中にコミセン小宅地域交流広場という資料が1つ入っているんですが、きょうはその自治会長さんが来てくれるはずやったんですけど、ちょっと用事ができてしまって.....。

**【道奥副委員長】** 資料 - 5 でしょうか。

**【和崎委員】** 資料 - 10 です。

これは、本竜野の駅前あたりの小宅地区という地区がありまして、ここで、どうやって地域の人たちをみんな1つのほうに目を向けてもらおうかと。それはいろんな方法があるんだけど、その1つとして、揖保川の昔の姿みたいなものを1つのキーワードにして、これを冊子にできるような、そんなプロジェクトをみんなできようということで、ちょうど今、企画をされているところなんです。実は、昔の揖保川の写真、いろんな蔵の奥から大正時代の写真が出てきたり、高瀬舟の写真が出てきたりしておりまして、こういうものに、今、お年寄りが覚えておられるような思い出をどんどんと追記して、アーカイブといいますか、1つの本にまとめよう、こういう活動が、それぞれの校区単位で、実はきっとあるんだろうと思います。流域委員会として、こういう校区単位の活動をつなぎながら広報をしていく、それから、逆に言うと、その人たちの活動を流域委員会として揖保川につなぐという流れにしていくというのも重要な手法なんだろうという気がします。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

実は、大阪湾でも同じような話がありまして、大阪湾に対する関心が、大阪、阪神間、近畿一円の方は薄いということで、昔のこういう写真、各家庭にはものすごくあるんです。それを持ち寄って、今おっしゃったようなアーカイブをつくって、関心を持っていただく1つのきっかけに、あるいは、環境を整備する上で1つのリファレンスにできるんじゃないかということと同じように取り組んでいただいておりますけども、これは1つの大きな方法論であるかと思えます。

そのほかにご意見、お願いします。

**【田中丸委員】** 先ほど栃本先生が、学生の周りにそういう関心を持っている人がいないということをおっしゃられて、私も水曜日に大学院の講義で脱ダムに関する論争の論文を読ませて自分の論評を述べるということをしてきたときに、大学院生が「私は、この学科に入っていなければ、まずこんなことに関心を持つことはなかったと思う」ということを発言しておりましたけれども、現状にそれなりに満足していれば、わざわざ目を向けるということが少ないような気がするんです。まして、タウンミーティングみたいなものとか、ワークショップみたいなものやっても、比較的短い過去に洪水があったり、あるいは洪水の危険性が高まったことが経験されていけば治水に関する意見も出るだろうし、そうでなければ、むしろ環境のこととか、あるいは、昔はこんな河原で遊びやすかったとかそういったことの見方のほうが勝ってくるだろうしというところがあって、とはいえ、数十年スパンで河川整備をするということだと、治水のことも意見はやっぱり拾わないといけないしという実態があるかと思えますので、そうすると、なかなか具体的には難しいんですけども、例えば、多分行政側がやるべきことなんだろうと思いますが、ハザードマップの見方を地域の人たちに講習すると称して人を集めて、その機会と抱き合わせて揖保川に関する意見を、今度は逆に、そのときに住民の方にも申し述べてもらえば、その機会であれば、多分治水に関する思いというものも何か集められるような気がするんです。そうでなくて、一般論として揖保川の思いをということであれば、その時々に応じた意見しか得られないから、ちょっと方法論はあるんじゃないかという気はしました。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

委員の何人かの方々からは、河川と人間、暮らしの距離が遠ざかっているというご意見があったと思うん



ですが、私は逆に、河川というのはあまりに身近過ぎるんじゃないかなと。つまり、生活の周りの、毎日でも目にするものでございます。空気と同じ話、あるいは我々の家族と同じで、それがトラブルったときに大変大きな意識を持って、問題意識、関心を持つと。今いろいろ話題になっているような川、近畿一円、あるいは全国にございますけども、そういうところは大体何かトラブルっている方向で関心が集まっているように思います。

そういう意味で、今、田中丸委員がおっしゃったのは、1つはトラブルを疑似体験するようなことだと思うんですが、ハザードマップで、いざ水害が起こったらこういうことが起こるんだということも含めた、1つの危機感を疑似体験する機会としてそういう講習会みたいなものがあるんじゃないかと。環境についても多分同じことが言えるんでしょうね。何らかの体験、あるいはそれに似た疑似体験的なものを伴ったような広報、PR活動というのは1つの、つまりトラブルとどうなりますよということが1つの関心のきっかけなのかなと。あまりいい誘い水ではないかもわかりませんが、実際、社会現象として皆さんが河川に興味を持っている現状を見ますと、どうもそういうときに関心を持っていただいているような気がします。

そういう意味で、揖保川は今、幸いにも、大きなトラブルが、個々にはもちろんある、それはよく存じ上げておりますけども、全体的にはそういう状況にあるのかな、空気のような存在になってしまったのかなという気がちょっといたしました。

そのほか、ご意見ございませんでしょうか。

**【中農委員】** 最近のまちづくり、ものづくりの傾向として、例えば公園整備をする、小学校を全面改築して建てかえる、そういうときに何をしているかということ、ワークショップをやっているんです。まさに公園なんかは、従来でしたら行政、市なり町がある日突然、自分たちの地域の公園を工事して、ある日突然、完成して、「はい、あと、使いなさい」という形で住民に提示しておったわけです。ですから、当然、住民としてはそんな公園、全然関心もないし、ただ使いにくいということをや句言うぐらいな形で何の愛着も感じない。これはだめだということで、ほんとうに地域の使う方が、計画の段階から参加してもらって、計画をつくる段階で参加することによって組織もつくっていく、その後、公園を維持管理する愛護会とかそういう組織をつくっていくというのが、今、主流になりつつあるんだけど、なかなかすべてがそうはなっていませんけど、そういう考え方に来ているんです。

だから、この揖保川流域委員会だって、本来はもっと早い時期にワークショップなりをやって、何かもっと当初の段階で住民を参加させるような取り組みが必要だったかなと、今ちょっと私自身も反省はしているんですが、住民を参加させようと思ったら、やはり市なり町が一緒になってやってもらわんとこれはできませんから、今の段階でどうすべきか、先ほど田中丸先生が言われたように長期的な視点と短期的な視点、両方要りますから、長期的な視点でいえば、やはりそういうワークショップみたいなものやっていくのが私は一番いいのかなと思いますし、短期的にいうと、先ほど庄先生が言われたような形で、とにかく今は地域に出かけていく、「おいでよ」と言うんじゃないで出かけていって「こんなんですよ」という形でやっていくしかないのかなとったりしていますけど、それが、100%というのは無理ですから、どれぐらいまでのものにとどめるのか、そういうことしかないのかなとったりしますけど。当然、テーマコミュニティと地縁コミュニティがありますから、地縁コミュニティは庄先生の言われた形でやっけていって、テーマコミュニティというか、一般的には先ほど言われたようなSNSという形でやっけていくしかないのかなとたりしています。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

いろんな広報活動の形態があるかと思いますが、この流域委員会のそういう広報活動の中において、流域委員会、あるいは委員個人が果たすべき役割、あるいはどこまで所掌できるのか、責任はどこまで持てるのか、持てないのかということも含めて、流域委員会のあり方、流域委員のかかわり方なんかについても

ご意見がありましたらいただきたいと思いますが。

**【新聞委員】** 何のために関心を持たせるのか。そちらからもそういう意見が出ておったんですが、私もそれを今一生懸命考えていたんですけども、やはり水を汚さないとか、環境問題とか、命の水であるということとか、そういう認識を持たせることが大事じゃないかと思うんです。それで、治水、どこにどういう堤防をつくるかということは、やはり専門的な観点からいろいろ計算されて、ここはこういうふうに出たときに危ないからこうしますという意見が既に出ているんです。それよりも、やはり何のために関心を持たすかというたら、水質、環境、命の水、大切にということならば、広報にもそういう視点で、議事録みたいなばかりじゃなくて、そういうコーナーというんですか、そういうものを意図的に載せていったほうがいいんじゃないかなと思うんです。

以上です。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

ニュースレターなのかどうかわかりませんが、1つの紙媒体広報のやり方として、委員会の広報というそれ自身は定常的にあるんでしょうけど、それ以外に、ある意味、問題を特化したシリーズ物というか、特集号みたいなそんなことも含めて考えていければいいんじゃないかと、こういう理解でよろしいでしょうか。そんな感じですか。

**【新聞委員】** 1つの意図を持ってね。

**【道奥副委員長】** ありがとうございます。

各委員の意見を通して共通してご指摘のあります広報の目的と、それに対する方法論をきちっと対応させるというご意見だったかと思えます。

そのほか、委員のかかわり合い方、委員会がどこまでかかわっていくのかということに関しまして何かご意見ありましたらお願いしたいんですが、もし具体的に動くとなりますと、我々、そうしたらその中でどこまでできるのかという話も出てくる、そういう段階は必ず来ると思うんです。

SNSを実行する場合におきましては、和崎委員は全面的に働いていただくざるを得ないのかなとも思っておるんですけども、そういう広報のやり方によりましては、我々ができる範囲とできない範囲というのはあると思います。そのあたり、いかがでしょう。もうあまり時間がなくてあれなんですけども、あと1つ、2つ、ご意見がありましたらいただきたいと思いますが。

**【中農委員】** その広報・公表する主体はだれかということですね。

**【道奥副委員長】** そうですね。

**【中農委員】** この辺は、流域委員会として、先ほど所長さんが言われていましたけども、どこまでのことを任されているのかというのが1つあるのと、もう1つは、例えば流域委員会が主催して何かをやるとして、そこで話があったときに、自分たちの計画書、委員会が提出した報告書であれば、地域の人の声をその報告書に生かしましょうというのは私たち、言えますよ。でも、今の実際の整備計画をつくる段になって、私たちがもし主催して、意見があった。それは国交省に申し伝えておきますという話になるんですかね。だから、その辺、整備計画をつくる主体がもっと積極的に、ここでいえば河川管理者がもっと広報・公表をどうするのかというのを考えたほうがいいのかも思ったりするんですが、それを私たちは応援すると。

**【道奥副委員長】** そうなんです。例えば整備計画について広報する場合は、主体は管理者さんになる

んですかね、流域委員会は管理者でございませんので。ただ、提言をした立場から、いろいろなかかわり合いはあるかと思いますが。そういう意味で、何を広報するのかということによりまして流域委員会が直接かかわり合う場合と、それを仕組む、プロデューサー的な役割をする場合とがあるかと思いますが。

例えば、タウンミーティングとはちょっと違ったかもわかりませんが、以前、地域に入りまして、揖保川を語る会みたいな、あのときは、提言が出る前だったかな、流域委員会主催ということだったと思いますので、ああいう形では主催になっていたように思いますけども、これから整備計画が固まると、管理者さんが、当然、その内容については説明をする場面のほうが多くなってくるのかなと思います。

**【進藤委員】** あくまで広報の主体というのは国土交通省であると認識してよろしいんですか。国土交通省がそういうぐあいに説明したり、我々はあまり、先ほど意見があったように、このスケジュールを見ていたら、やっぱりどんと表に出るということは不可能だと思うんです。

**【道奥副委員長】** 整備計画に関してはそうですね。

**【進藤委員】** ええ、整備計画については、規約を見てもそうですし。

**【道奥副委員長】** そうですね。先ほど所長さんがおっしゃっていましたような、流域委員会として活動の場を、あるいは流域委員会自身じゃないかもわからないけど流域委員会が骨格となることができるような組織がもてれば、そういうところが主催になったりするのかなとも思いますし、以前から、藤田委員長は「ポスト流域委員会に」みたいなことをおっしゃっていますので、そういうところで管理者でなければできない部分はもちろんケアできませんが、それ以外の部分について我々がかかわり合うという方法もあるのかなと思いますが、これは、もちろんここでいろいろ意見交換いただきたいと思いますが。

**【庄委員】** 住民の意見を反映させるという観点からはどう考えたらいいんでしょう。

**【道奥副委員長】** ちょっと管理者さん、もし今の意見のやりとりでご意見がありましたらお願いしたいんです。

**【井上事務所長】** 私どもは、住民の意見を反映させるということが役割だと思っているんですが、どういうやり方でどうやるのかということについては、まさしくこの流域委員会の中で、こうすべきだということに沿っていきたいなと思います。例えば、今いただいたようにタウンミーティングを開いたほうがいい、それで、なおかつ河川整備計画の内容については河川管理者から説明すべきであるというのであれば、そういう形でやりたいと思っています。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございます。

いろいろご意見がまだあるかと思うんですが、もう少し広報については議論を進める必要があるかと思っています。きょうご提示いただいた事務局からの案の一つ一つにつきましても特に意見交換をする時間はありませんでしたので、もう少し意見交換が必要なのかなと思いますが、ちょっと時間も来ましたので、きょうは意見交換、これくらいにさせていただきたいと思います。恐れ入ります。

それで、質疑応答は以上で終了させていただきたいと思うんですけども、いつものように傍聴の方から何かご意見をいただきたいと思うので、それでは、先に挙手いただいていた後ろの方からお願いいたします。

**【傍聴者】** 失礼します。これが第20回の揖保川流域委員会ということで、私、新聞の折り込みで出席

願いますということで来たんですが、一般は関心がないと。なぜそこでそう決められるのか、参加がないと。自治会長に私も「こういうのが26日にあるんやで」と言うたら、「いや、そんなもん、知らん」と。何をホームページで、SNS、いろいろとやられておりますが、きょう、私、参加して不愉快な思いをしました。なぜかといいますと、揖保川流域委員会というたら、一体趣旨は何ですか。それがまず1点。

それと、私は流域ということの、揖保川の一級河川敷が泣いておると思います。なぜかと申しますと、私は流域委員会があるのが20回にもなっているのに初めて今回知ったのと、国土交通省さんには自治会から何回でもお願いしております。それが一向に進んでおりません。なぜかといいますと、私らは新宮町の揖保川の鯨崎橋の下の鯨崎というところですが、川の中にもものすごく大きな木が生えています。あの木を切ってくださいと国土交通省にお願いしました。そうすると、返答は、愛鳥会の木やから切れませんか。愛鳥会は鳥を観察するのに必要なんだと。そしたら、ものすごい水害が出て、あの木に材木がひっかって、土手に水が入り込んだら私らの村はつかってしまいます。

それと、揖保川と栗栖川の合流地点になっておる私らの地区ですが、揖保川の水が増水すれば栗栖川の水が揖保川へよう流れ込みません。その中において栗栖川が増水すれば村全体がつかってしまうんです。20年前にはそんなことがあったんです。

そして、国土交通省さんの強いところは、例えば鯨崎の橋を渡り切ったところの西鯨崎の村のところには押しボタンがあるんです。橋の歩道をずっと渡って帰ってきたときに、道路を渡らなくては押しボタンが押せない。橋を渡ってきたところへ1つ押しボタンをつけてくださいと警察にお願いしたら、国土交通省さんから小さな穴をあけてもらったら困るということでそれもつけられませんか。今、揖保川流域会の話聞いておりましたら、災害が起きてから何とかしようという計画に基づいて、なぜこの温暖化になりよる、今から10年もかからんうちにものすごい台風が来る、ハリケーン規模の台風が来ると言っております。山の木も23号で大変多く倒れました。あの山の木もそのままにしてあるところもようけあります。あの木が倒れたために水も増えてくると思います。その水が山から流れてきたら川へ流れていくのは当然です。木にひっかかる、橋にひっかかる、大水害になると思います。その対策がなぜできないんですか。国土交通省と、魚を釣る人の川だと、一級河川敷が泣いておるとするのはそこです。

以上、いろいろくだらないことをしゃべりましたが、なぜ水害が起きるまでに対策をしないかと。今の流域会の話聞いておいたら、災害が起きてから地域の人に何とか皆、話しかけておいて、それで対策しよう。そればかりの話のような気がしました。地域の人が川の木を切ったらいいかと。それは国土交通省さんが絶対許してくれないと思います。ほんなら、何のために地域の人を集めるんやと。私、今、ずっと話を聞かせてもらって、委員会がそこで全部質問されておりましたが、委員会の人はお茶を飲み、コーヒーを飲み、そこでしゃべっておる。それでいいのと違いますの。わざわざ私らに呼びかけんでもいいのと違いますの。何のための委員会をされておるんですか。集めたらいい、集めたらいいって。こんな気分の悪いことやったら、私は地域へ帰って「あんなもん行ってもしょうがないで」と言っておきます。

以上です。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

流域委員会の意義につきましては、なかなか一言でお話しできない部分がありますが、端的に言いますと、河川整備計画というのがこれからでき上がっていくわけですが、それをつくるに当たって各専門の方、あるいは地域を代表される方々から地域の意見をいただいて、それを計画に反映していただくよう提言をし、整備計画に対して意見を述べるという役割を担っていると私自身は認識しておりますが、そういったことも含めて、地域の皆さんに流域委員会の役割が十分伝わってきていないのではないかという懸念を委員会が持っております、そういう形できょうの議題を議論させていただきました。なかなか一言、二言では十分にお伝えできない部分があるかもわかりませんが、そういう説明で、今のところ、お願いしたいと思っております。

あと、後半で言われました具体的な地域のそれぞれの問題につきましては国土交通省さんで多分いろいろ

対策等を考えておられると思いますが、今、お答えできる部分はごさいしょうか。

(「済みません、傍聴の意見を先に聞いてあげてください。時間がないでしょう」の声あり)

**【道奥副委員長】** では、そうさせていただきます。後ろの方、お願いします。

**【傍聴者】** 揖保川町から参加いたしました。

第1回流域委員会の発足から参加させて頂いております。地域に密着した資料の配布について、私も庄委員が言われていたように新聞折込でなく、できれば自治会の配布物(市から出される配布物)と一緒に配布されると多くの方々に見ていただけたと思います。

せせらぎだよりの内容について、最初の資料と現在の資料とは少し変わってきたように思います。最近の26号のせせらぎだよりは、一般的に分かりやすいように思います。

私は治水が一番大事と思いますが、皆さんに川をよく知っていただく事も大切ではないかと思えます。私は年に1回園児、小学生にお会いする機会があります。その時に川の水底に住む生物(魚)等について話をしております。現在は学校にプールがあり、子供も川に行く事も少ないのではないのでしょうか。この機会に川の流れを見ながら安心して飲める川の水について話しております。流域の住民が安心して飲める揖保川の水を後世に引き継がなければなりません。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございます。じゃ、もうお一方、前の方、お願いします。

**【傍聴者】** それでは失礼します。

きょうの流域委員会のメンバーの中で揖保川の下流域の人が1人も入っておりません。前回の議事録を見ますと3名の欠員があって、補てんがきかないので他の分野の委員が補足してできると書いてありますが、ほんとうにそうでしょうか。私は下流域の人間として、今おっしゃっているいろんなごみとか、洪水とか、水質、それをすべて引き受けているのは川じりです。

3年前の台風では川じりの堤防が切れかかって、畑が皆、水浸しになるという、いつ切れるかわからない恐怖を私たちは味わいました。そういうものが他の分野の方々に川じりの特徴を代弁できるのでしょうか。やはり上流域、中流域の方がおられるのなら、下流域の方もぜひ委員として加え、広い揖保川全体の意見をきちっと集約できるようにしていただきたい。特に私は川じりにおる者として、このことを一番強く、はっきり言って憤りを感じます。

以上です。

**【道奥副委員長】** どうもありがとうございました。

まだご意見はあろうかと思いますが、予定した時刻が参りましたので、これできょうの委員会を閉じたいと思います。

きょう、いろいろご意見をいただきましたが、幾つかのポイントがあったかと思えます。

まず広報の目的を明らかにして、それに応じた方法論をとるべきであろうということと、それから、広報のあり方について、短期的には整備計画に対して意見を反映するという非常に短時間スケールのミッションもあるけども、より広い意味で、あるいは、より長期的な意味でそういう広報の活動を流域委員会が何らかの仕掛けをつくってしていくべきではないか、短期的な広報と長期的な広報に整理して考えていくべきではないかというご意見があったかと思えます。

それと、広報の相手方といいますが、どの地区をターゲットにするのか、自治体の役割というものをより明確に考えるべきである。あるいは、自治会、校区といった単位で、より具体的に広報をしていく方法論についても考えていくべき段階ではないかというご意見があったかと思えます。

そのほかいろいろ、ご意見をいただきましたけども、とても短時間でまとめ切れませんので、このあたり

で、あとは議事録でご確認をいただきたいと思います。

それでは、本日の第20回の流域委員会、これで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

**【庶務】** 済みません、では、最後に庶務からご案内させていただきます。

次回の第21回流域委員会につきましては、現在、委員の方の日程を調整しておりまして、審議内容につきましては、きょう最初にご説明させていただきました河川整備基本方針の、今審議中の内容についてご報告をさせていただく予定です。

概略の日程でございますけども、2月の後半、あるいは3月の上旬を予定しております。また詳しい日程については庶務からご連絡させていただきますので、よろしくお願いたします。

では、以上で閉会いたします。ありがとうございました。

以上